

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 1：大学拡充計画の推進						
<p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【基本方針:6】 新学部や附属病院の進展を検討</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・福祉の総合大学化の完成 2. 大学の発展と更なる進歩を目指す 3. 附属病院の健全運営の取組と新たな分野への発展の取組 4. 新学科等増設に伴う施設整備計画の検討及び実行 5. 計画的な施設整備による安全安心の環境確保 						
<p>責任者:鈴木秀幸(法人事務局長)</p> <p>分担者:山口えり子(企画広報課長)、宮崎和裕(管財課長)、向井正治(医療福祉事業管理室)、清水計雄(医療福祉事業担当課長) 濱口直樹(桜の森病院事務長)</p> <p>事務局:企画広報課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—					▶
中期計画 2.	—					▶
中期計画 3.	—					▶
中期計画 4.	—					▶
中期計画 5.	—					▶
2021 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 医療・福祉の総合大学化の完成	<p>①2022 年 4 月保健衛生学部救急救命学科を設置するため、文部科学省および関係省庁と調整を図り申請業務を遂行する。</p> <p>◆文部科学省へ 2021 年 3 月収容定員関係学則変更認可申請書提出、2021 年 4 月学科設置届出申請書提出、厚生労働省へ 2021 年 5 月科目読替え書類提出</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>文部科学省へ令和 3 (2021) 年 3 月収容定員関係学則変更認可申請書提出、4 月に学科の設置の届出を申請し、同年 6 月末に受理された。また、同年 5 月に厚生労働省へ科目読替え書類を提出し、6 月末承認された。</p> <p>◆設置の認可後速やかに学内に周知し、学生の受入準備を加速させるとともに、記者会見を開催し当大学のプレゼンスを向上させる</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2021 年 7 月 7 日報道関係者に向け、救急救命学科開設記者会</p>					

	<p>見を行った。</p> <p>本学科は、三重県初の救急救命士養成学科であり、4年間の充実した学びで、病院前救急医学に関する知識及び救急・災害医学に精通し、博愛精神を基本に人の痛みや苦しみに目を向け生涯にわたって継続的研鑽・学習に励み、専門的知識・技術の水準を維持する能力と態度を身につけ、救急指定病院、救急搬送サービス、大規模災害等において活躍できる救急救命士を養成する。第1期生47名（入学定員40名）を迎え、救急救命学科の新設により完成年度の令和7年度には大学の収容定員は2,920名となる。</p> <p>②医療・福祉の総合大学として、学部、学科、専攻の更なる充実を図り、社会のニーズに適応した学部学科等の新設、再編について検討、推進する。</p> <p>◆他の医療系大学の学部、学科組織の動向、社会のニーズ等を継続的にウォッチし、適応した学部、学科等の新設、再編に即時対応できるよう体制を整える</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>現在、臨床検査技師養成課程は、保健衛生学部医療栄養学科の専攻として設置しているため、高校生や社会から認知されにくいとの側面がある。「基本方針2021」でもここ近年の増設につぐ増設で分かり難くなった学部、学科編成を高校生目線で分かり易いように改組することをあげており、今回、新学科として臨床検査学科を設置することにより、従前より多くの高校生に認知してもらうことで入学者の確保につながると判断し、保健衛生学部医療栄養学科（入学定員90名）を改組し、臨床検査学科（入学定員50名）を設置することとした。現在の医療栄養学科は入学定員を40名に変更し、管理栄養士養成課程として存続させる。</p>
<p>2. 大学の発展と更なる進歩を目指す</p>	<p>①医療・福祉以外の分野の学部創設の可能性について検討する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>「基本方針2021」に掲げられたとおり、「健康」を切り口として、医療・福祉以外の分野の学部創設の可能性について社会のニーズ、他大学の学部学科の状況を調査し、検討を続けている。また、教員の新規採用により、令和4年度には学長付きで2名を配置しさらに進展させる予定である。</p>
<p>3. 附属病院の健全運営の取組と新たな分野への発展の取組</p>	<p>①桜の森病院の経営健全化のため、ISO 認証取得</p> <p>◆2021年8月第一次審査、9月第二次審査、10月後半～11月頃取得予定</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>認証機関による第一次審査(8/30)及び第二次審査(9/28-29)を合格し、10月11日にISO9001の認証を取得した。</p> <p>②鈴鹿市医師会に正会員として加入</p> <p>◆2021年6月加入</p>

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2021年4月に正式加入した。</p> <p>③鈴亀地域医療構想調整会議への参画</p> <p>◆2021年度内に「桜の森病院」として正式に参画</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2021年11月、コロナ禍により開催が大幅に遅れていた「鈴亀地域医療構想調整会議意見交換会」に院長が初参加。開院後の進捗報告を行った。</p> <p>④三重県内主要病院との関係強化</p> <p>◆三重県内主要病院の地域連携室への定期訪問(3カ月に1回)による情報発信・情報収集に努め関係強化を図る</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 コロナ禍により定期訪問は見送り。12月中に院長、看護師長、事務長及びソーシャルワーカーで開院後の挨拶回りを実施。(桑名・四日市・鈴鹿・津の主要病院12件)</p> <p>⑤鈴鹿市、亀山市内の診療所との関係強化</p> <p>◆鈴鹿市…医師会の「在宅支援診療所登録医」への出席(毎月1回)による情報発信・情報収集に努め関係強化を図る</p> <p>◆亀山市…亀山市立医療センター・三重在宅クリニックへの定期訪問(3カ月に1回)による情報発信・情報収集に努め関係強化を図る</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 鈴鹿市…院長が毎月登録医会に出席し、鈴鹿地区の診療所医師との連携を図っている。 亀山市…コロナ禍により定期訪問は未実施。今後の感染動向を踏まえ判断する。</p> <p>⑥新たな分野への発展の具体方策の検討</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 継続中(自治体のコロナ対策による遅れもあり)</p> <p>⑦国・県の地域医療構想推進支援策の研究</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 継続中(自治体のコロナ対策による遅れもあり)</p>
<p>4. 新学科等増設に伴う施設整備計画の検討及び実行</p>	<p>①救急救命学科導入に伴う施設整備(2021年度)</p> <p>◆白子コミュニティハウス改修により実習室等設置(2021年11月)</p> <p>◆白子3号館に新規雇用教員の研究室3室確保(2021年11月)</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 救急救命学科導入に伴う施設改修(コミュニティハウス→7号(2021.11))</p>

	<p>救急救命新規教員用研究室構築（3号館）（2021.11）</p> <p>②新築又は増築も含めた施設計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新学科の構想がある場合には、速やかに新学科増設による増築又は新築を検討する <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 具体的な案件なしのため未検討</p>
<p>5. 計画的な施設整備による安全安心の環境確保</p>	<p>①中期施設整備計画の策定（外壁、防水、建築設備）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆千代崎キャンパス、白子キャンパス内施設の中長期整備計画の見直し（2021年10月） ◆前述中長期計画から緊急性及び重要性を考慮した次年度整備に向けた予算作成（2022年1月） <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 中長期整備計画の見直し（リニューアル）（2021.11） 上記を活用した予算計画の作成（2022.3）</p> <p>②法令改正等への遵守（耐震、防災等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆施設内における二次部材（特定天井）耐震対策提案作成（2021年12月） ◆照明の更改（LED化）計画の作成（2021年12月） ◆学内バリアフリーの見直しおよび計画の作成（2021年12月） <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 二次部材耐震化のコスト算出（2021.12） 計画的なLED化の実施（千代崎外灯、講義室）（2022.3）</p> <p>③新たな脅威（コロナ等）への対応（換気、リモート環境）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆換気対策の見える化（網戸、CO2センサー導入等）検討（2021年11月） ◆ICTを利用した新講義実施による施設整備（2021年9月） <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 白子1号館7階に新しい講義に向けた施設構築（2021.7）</p>

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 2 : 大学広報の強化と入学者受け入れの改善						
<p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【基本方針:6】 新学部や附属病院の進展を検討</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広報活動の強化および大学ブランド力を向上させる情報発信 2. 本学の強みや特色・教育・研究・社会貢献についてのパブリシティを高めるため、報道機関との連携強化 3. 学生募集体制の強化と選抜制度の見直し（全学部・全学科の定員充足） 4. ディプロマを明確にした広報活動の展開 5. 高大接続を意識した社会貢献活動の推進 						
<p>責任者: 森下芳孝（学生・社会貢献担当副学長） 分担者: 小山尚樹（入学課長）、山口えり子（企画広報課長） 事務局: 入学課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—					→
中期計画 2.	—					→
中期計画 3.	—					→
中期計画 4.	—					→
中期計画 5.	—					→
2021 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 広報活動の強化および 大学ブランド力を向上させる 情報発信	<p>① 広報内容について、各組織（学部学科）や部署との相互連携を図り情報収集と共有を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>新着情報の発信や更新や載せ替えなど、日頃から他部署と情報共有し連携を図っている。例えば、コロナ禍による高校生との接触する機会減少を補うため、昨年度リニューアルした「受験生応援サイトイベント情報ページ」内コンテンツを引き続き強化している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特設：メール・オンライン入試相談」…メールでの入試相談 ・「入試対策講座」…動画による入試のポイント解説 <p>他にも「在学生の声を紹介するコンテンツ」では、継続した更新作業に留意し、リアルな学生の声が届くよう充実させている。また、就職・キャリア支援課より情報提供を受け、取得可能な資格、就職支援、就職状況、在学生や卒業生の声など学生へのサポート内容を更新し、ホームページに掲載している。在学生をはじめ、受験生や保護者などへ本学の就職支援についての情報提供を行い、本学の取り組みについて広報している。</p> <p>② 大学の取り組み、教育や研究の成果、社会貢献活動などの内容</p>					

	<p>を積極的に発信する。</p> <p>(1) 大学ホームページの充実化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学ホームページの管理運営、見直し改善 ・ 新着情報発信への迅速な対応 ・ What's new の情報更新 (随時) ・ 救急救命学科 特設サイトの公開 (2021 年 6 月) <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2021 年度は、広報活動強化目標の 1 つに掲げた「新学科の広報強化」のツールとして、「保健衛生学部救急救命学科」特設サイトを公開した (5 月 28 日公開)。7 月 7 日にはメディア対象に「救急救命学科開設発表」を行い、計 9 社から取材を受けた。</p> <p>大学や学部学科の取り組みについては、新型コロナワクチン大学拠点接種実施 (8 月 31 日取材) をはじめ、作業療法学専攻の VR を活用した授業 (11 月 26 日取材)、多職種連携教育への取り組み (3 月 25 日取材) など特色ある授業などを取り上げ、コロナ禍においても、大学での学びを止めないための随所に配慮した対策や取り組みについて広報を行った。</p> <p>教育や研究の成果については、研究振興課と社会連携研究センターと協同で新しいサイトを立ち上げ公開した (3 月 31 日)。研究の成果については、同課と同センターより情報提供を受け、今後も大学ホームページの What's New や SUMS News でも発信していく。</p> <p>(2) 公式 SNS の運用を強化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS の特性を活かした配信の検討と実施 (配信数前年度比+10%以上を目標) ・ 友だち登録やフォローの促進方法の検討 <p>■達成(100%)□ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>[公式 SNS の運用]</p> <p><u>公式 SNS 配信数</u>：計 66 件 (前年度比+15 件、目標比+19%)</p> <p>▽内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>LINE 投稿件数</u>：31 件 (メッセージ 29 件、タイムライン 2 件) <p>友達追加数：2,035 名 (2022. 4. 25 データ)</p> <p>※前年度比+600 名、ブロック数を含む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>Instagram 投稿件数</u>：35 件 <p>フォロワー数：736 名 (2022. 4. 25 データ) ※前年度比+274 名</p> <p>公式 LINE では、オープンキャンパスや入試情報、進学相談会など、受験に結び付く内容をメイン配信し、詳細をホームページ本体へと促すことで誘導している。</p> <p>公式 Instagram では、キャンパスライフをイメージできるような内容を投稿している。クラブ・サークル紹介についてハッシュタグを利用して紹介したところ、各クラブ・サークルでのアカウント運用が始まり活性化し始めた。今後も学生からの情報発信が見込める。</p> <p>(3) 紙媒体、動画、交通広告、新聞、メディア広告などを利用した情報発信をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「SUMS News」の発行 ・ 交通広告の利用 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 駅看板のデザインリニューアル (2022 年 3 月) ・ 新聞やメディア広告の有効的な利用 ・ 大学紹介動画への内容追加の検討 (2021 年 10 月) <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>
--	--

	<p>上記達成状況の具体的内容 交通広告については、駅看板のデザインをリニューアルし、2022年4月上旬に貼替作業が完了した。今後も近鉄主要駅への継続掲出で訴求効果を高めていく。 大学紹介動画については、医療健康データサイエンス学科開設に伴う内容変更と附属桜の森病院の追加などの修正を行った(9月28日公開)。 新聞の記事体広告へは、中日新聞と朝日新聞の教育企画へ掲載し、広い読者層に向けてのPRを行った 他にも「SUMS News」を年4回発行し、大学の取り組みや学生の活動などを紹介している。</p> <p>③大学ポートレートへの継続参画を行う。 ・大学の教育情報に関する情報公開の充実を図る ◆一斉更新…2021年7月、以降新情報は随時更新 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 大学ポートレートは、毎年7月に各学部、研究科、事務局各課へ内容確認と更新作業を依頼し、最新の情報公開を行っている。</p>
<p>2. 本学の強みや特色・教育・研究・社会貢献についてのパブリシティを高めるため、報道機関との連携強化</p>	<p>①パブリシティ機会の獲得に有効な情報発信に注力し、新聞・テレビ・ラジオなどマスメディアを利用したプレスリリースや広報活動を積極的に行う(プレスリリース前年度比+10%以上を目標)</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 マスメディア(新聞、テレビ、ラジオ)を利用した広告展開や、県内報道機関への本学の教育・研究・社会貢献活動などに関する情報発信を随時行った。社会情勢に気を配りながらのプレスリリースとなったが、広報内容ごとに効果的な媒体を見極め、大学PRへと繋げた。 マスメディアに対しては、特に新設の救急救命学科に関するタイムリーな情報発信や積極的な広報に努めた。2021年7月7日実施の「救急救命学科開設発表」では、9社から取材を受け、テレビ・新聞・Web・鈴鹿市広報誌へと広く情報発信ができた。 またFM三重で限定スポットとして、8月の1ヶ月間にCM100本を集中的に流した。新設の救急救命学科と医療健康データサイエンス学科のPRを行い、単純接触効果を試みた。FMラジオ媒体において、ホームページやSNS、新聞広告とは異なるステークホルダーへの訴求効果が期待でき、幅広いリスナーへ本学の広報ができた。</p> <p>・プレスリリース：計17件(前年度比+4件、目標比+20%) 上記に対する取材(47件)、告知掲載(4件) ・マスメディア掲載状況：計70件(前年度比+15件) 内訳：テレビ・ラジオ(20件)、新聞(44件)、雑誌他(6件) ・新聞広告/マスメディア協賛：計19件 内訳：テレビ・ラジオ(9件)、新聞(8件)、雑誌他(2件)</p> <p>②マスコミとの信頼関係を構築し、ネットワークを広げる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 今後も県内報道機関とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係の構築やマスメディアの興味を促す情報提供、ニュースリリースのタイミングにも留意していく。</p>

<p>3. 学生募集体制の強化と選抜制度の見直し（全学部・全学科の定員充足）</p>	<p>①2021 年度入試において定員が未充足である学科（専攻）への広報活動の比重を高くする。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 前年度定員未充足学部であった薬学部に比重を置いた広報活動を実施したが、定員充足には至らない状況があり更なる広報強化を進めて行く。</p> <p>②早期により優秀な学生の確保を実現するため、学校推薦型選抜の改善を進める。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学校推薦型選抜入試において、「特待生の選考」「基礎テスト方式の選択科目変更」「指定校制推薦基準の見直し」等を行い、志願者数を 134 名増加させた。</p> <p>③現状分析により、大学入学共通テストを利用する選抜方式の内容（利用方法等）を見直す。また学外試験会場の設置都市の見直しも行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 共通テスト利用方式において選抜方法の変更により、志願者数 407 名増加した。また、学外試験会場は一般選抜 A で岐阜会場を新設し、逆に学校推薦型選抜で那覇会場、一般選抜 B では大阪会場を廃止し、ニーズに合わせ適正化を図った。</p>
<p>4. ディプロマを明確にした広報活動の展開</p>	<p>①ディプロマから想定される各学科が入学前に求める具体的能力（高校での履修内容・レベル）を明確化する（アドミッションポリシーをより明瞭にし、入学後の学力不足の解消を目指す）。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 入試ガイド及びホームページにて「入学までに身につけてほしい教科・科目」として、学科ごとに高校での履修の重要度を明記した。</p> <p>②卒業後の進路・資格をこれまで以上にアピールし医療・健康・福祉系大学としての、強みを全面に出した広報を展開する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 高校生向け受験情報誌（ネットサイト）での本学卒業生の紹介に力を入れることにより、医療・健康・福祉分野への就職力をアピールしている。</p>
<p>5. 高大接続を意識した社会貢献活動の推進</p>	<p>①高大連携協定校（5 校）との定期的な協議を行い、これまで以上の連携強化を進める。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新型コロナウイルス対策の規制緩和にともない、協議を段階的に再開している。また、各校の進路指導部との情報交換は頻繁に行っており、関係強化に努めている。</p> <p>②各高校内で導入が増えている「学問探求活動」「キャリア教育」への医療系大学としてサポートを積極的に行い、本学の教育内容への理解を促進する。</p>

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

新型コロナ感染の規制緩和にともない、「学問探求活動」「キャリア教育」が再開しており、高校生の受け入れ、高校への講師派遣を再開した。

- ③本学において県内高校生を対象とした2つのイベント（科学オリンピック・みえ探求フォーラム）の開催・後援を進めることにより、意識の高い高校生（高校教員）の本学に対する認知度・理解度を深める。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

令和4年10月に「科学オリンピック」令和5年2月には「みえ探求フォーラム」を本学にて開催する予定で調整を開始している。

第1 - 1期の活動計画の達成状況

重点分野3：教育内容の充実						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修業年限内に全員卒業、国家試験や資格試験の全員合格に向けた「SUMS方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の樹立及び遂行とその検証 2. 数理・データサイエンス（統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能）など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用力を備えた人材を育成するカリキュラムの全学的編成とそれらを展開する教育体制の確立 3. 学修者の能動的な学修を支えるための学修支援システムの更なる拡充及び学修成果の可視化による学修者自身の自学自習や就職活動に有用な仕組みの構築 4. 医療人底力教育と多職種連携教育の拡充・発展のための全学的な視点に立つ学科・施設横断型カリキュラムの再構築とその実践 						
責任者:片山直之（教務・教育改革担当副学長） 分担者:福田八寿絵（底力教育センター長）、田口博明（FD推進委員長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局:教務課						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→ SUMS方式学修支援方法の樹立		SUMS方式学修支援方法の遂行とその検証			→
中期計画 2.	→ 数理・データサイエンスに関する人材育成カリキュラムを全学的に編成		数理・データサイエンスに関する人材育成カリキュラムを展開する教育体制の確立			→
中期計画 3.	→ 学修支援システムの拡充と学修成果の可視化		学修者自身が自学自習や就職活動に学修支援システムを役立てる仕組みの構築			→
中期計画 4.	→ 新設学科及び大学附属桜の森病院を加えた横断的カリキュラムの作成			→ 新教育システムの再構築とその実践		
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 修業年限内に全員卒業、国家試験や資格試験の全員合格に向けた「SUMS方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の樹立及び遂行とその検証	教育改革委員会、教育質保証委員会、教務委員会、FD推進委員会の連携による学修者本位の教育の改善と各学科の教育の質向上を図る「SUMS方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の樹立 ① 本学教育の基本的方向性と具体的施策の立案とその実施 ◆教育改革委員会に加えて各学科及び全学共通分野の教育質保証委員会と連携し、学生の学力を担保しつつ、留年・休学・退学する学生を最大限に少なくする「SUMS方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」を樹立する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教育改革委員会は、各学科の教育質保証委員会と連携し、修業年限内の進級率及び卒業率の向上のための面倒見の良い教育を目指し、特別教育を構築し、推進した。各学科の教育質保証委員会から前期と後期に報告書が提出され、教育改革委員会はそれらの報告書の内容について審議し、審議結果を各学科へ還元した。留					

年者率は、2017 年度：5.3%、2018 年度：4.5%、2019 年度：3.4%と推移してきた。「留年ゼロ作戦」や「トコトンできるまで教育」の効果として、2020 年度：2.9%、2021 年度：3.1%という結果となった。次年度以降も修学年限内の進級率と卒業率 100%を目指す。

◆教務委員会は、教育改革委員会の意向を具体化し、各学科との調整を図りながら、実行に移すための対策を進める。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

教務委員会は、面倒見の良い教育を目指し、構築された特別教育を実行に移すために、その流れを検討し、推進した。流れの中で、各学科の教育質保証委員や教務委員、そして担任教員の役割などを明確にするなど、教育改革委員会との連携を取りながら、引き続き特別教育を推進していく。

② FD 推進委員会による教員意識の改革と授業改善の取り組み

◆教員のコロナ禍及びコロナ禍後の新しい生活様式においても対応可能な ICT (Information and Cmmunication Technology) を活用した双方向型授業を含めた教育形態を推進する能力の向上を図るために、年 2 回以上の FD 研修会・講習会を開催する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

○ 2021 年度 FD・SD 講演会 Zoom 開催

開催日時：2021 年 9 月 1 日 (水) 13 時 30 分～

・『IR 推進室の教学データの分析について』

(演者) 豊田 長康 学長

・『医療福祉分野における AI・データサイエンス人材の育成方法』

(演者) 鶴岡 信治 医療健康データサイエンス学科長

○ 2021 年度 第 7 回教育研究会 Zoom 開催

開催日時：2022 年 3 月 18 日 (金) 13 時 45 分～

〈学長賞①〉野口 佑太 助教 (作業療法学専攻)

・『早期体験実習の代替手段としてのバーチャルリアリティの活用』

○ 第 7 回 LMS 研究会 Zoom 開催

2022 年 1 月 12 日 (水) 14 時 00 分～15 時 45 分

・『薬学科における ESS システムを利用した取り組み』

(演者) 石嶋 康史 准教授 (薬学科)

・『learning BOX の使い方～基礎編～』

(演者) 森 和弘 取締役 (龍野情報システム(株))

・『IT 教育で「医療の未来」を変える』

(演者) 貴田岡久志マーケティング課主任 (龍野情報システム(株))

◆学生による授業評価を教育改善に役立てるために、学生参画型の FD 推進委員会を年 1 回以上開催する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

○ 学生参画教育改革・FD 推進委員会合同会議 Zoom 開催

開催日時：2021 年 8 月 5 日 (木) 13 時 30 分～

議題：

・3つのポリシー等の教育目標から見て教育が適切に行われているかについて

・遠隔授業 (Zoom) について

・学生による授業評価をどのように教員の授業改善に結びつけるかについて

・教育に関する改善点について

◆本学 FD 活動を他の大学・短大等にも広報し、連携を図ること

	<p>によって、授業改善の相乗効果を生み出すための教育・教務に関わる講演会を少なくとも年1回以上開催する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2021年度「高等教育コンソーシアムみえ」FD・SD活動事業の一環として、本学の以下のFD・SD講演会を案内しZoom開催した。</p> <p>○ 2021年度 FD・SD講演会 開催日時：2021年9月1日(水)13時30分～ 講師：村上 雅人 学事特別顧問(芝浦工業大学) 芝浦工業大学前学長[学長任期：2013年4月～2021年3月] 演題：高等教育の質保証とデジタルトランスフォーメーション</p> <p>③ 学習支援システムの活用</p> <p>◆学科の専門性に合わせた基礎学力養成教育を意識したリメディアル教育の実施を支援する組織の設置を企画する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>基礎学力養成教育を意識したリメディアル教育の実施を支援する組織を「医療人底力教育センター」内に設置し、2022年度から本格的な運営を始めている。</p> <p>◆遠隔会議システムZoomまたは動画などを利用した反転授業用教材を事前学習や事後学習に役立てるために、各学科あるいは全学共通分野において1科目以上での教材の作成とそれらの授業への導入を計画する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>遠隔会議システムZoomや動画などを活用した反転授業用教材を事前学習や事後学習に役立てるために、全教員及び全学生のlearning BOXの活用を目標に、各学科あるいは全学共通分野において1科目以上の導入ができる体制を整備した。2022年度版のFDハンドブックを作成し、SUMS-POやlearning BOXの利用方法紹介および教育改善取り組みの具体的例示等を掲載した。</p> <p>◆学修支援システムを用いた自学自習・演習の活用例を、learning BOXなどを用いて作成し、各学科あるいは全学共通分野において1科目以上での導入を計画する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>learning BOXやSUMS-POなどの学修支援システムを利用した自学自習用の教材を全学共通分野において1科目以上の導入を目指し達成した。learning BOXの利用率は2021年10月に実施したアンケートでは6割強という結果だったが、教員・学生ともに使い易いと評判が高く、利用率は増加傾向にある。全学科において1科目以上の導入を引き続き目指している。</p> <p>◆FD推進委員会の下部組織として設置されたLMS(Learning Management System)研究部会では、授業改善への取り組みとして、教員のためのマニュアルの作成および授業改善の成功の具体的例示等を学習支援システムで活用できるように計画する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>以下のように研修会を開催した上で、FDハンドブックを発行し、すべての内容を動画や資料として、learning BOXへアップし、いつでもどこでも活用できるようにした。</p> <p>○第7回LMS研究会 Zoom開催 2022年1月12日(水)14時00分～15時45分</p>
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・『薬学科における ESS システムを利用した取り組み』 (演者) 石嶋 康史 准教授 (薬学科) ・『learning BOX の使い方～基礎編～』 (演者) 森 和弘 取締役 (龍野情報システム(株))
<p>2. 数理・データサイエンス (統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能) など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用力を備えた人材を育成するカリキュラムの全学的編成とそれらを展開する教育体制の確立</p>	<p>数理・データサイエンス教育の始動に向けての教育体制の整備</p> <p>① 数理・データサイエンス教育の全学的な体制作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆全学的な標準カリキュラムの設置を検討し、「数理・データサイエンス (統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能)」など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用力を育成する科目の全学部での開講を企画する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>「数理・データサイエンス (統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能)」など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用力を育成する科目として、全学科・専攻の2022 年度新入生のカリキュラムに「医療人底力実践Ⅲデータサイエンス」を必修科目として組み入れた。授業の実施形態は、オンデマンド授業 (全学科同一内容) : 動画教材・スライド教材、理解度テストなど learning BOX を用いた個別学習として行うことで、データサイエンス・AI を日常生活・仕事等の場で使いこなすための基礎的素養が身に付き、自主的に統計データを活用する方法が体験できるようになっている。具体的には、表計算ソフト (Excel など) を使用して、実データを統計分析し、グラフなどの可視化技術によりデータの意味を理解し、コンピュータ実習によりデータサイエンスの基礎を身に 付けること を目指すものである。さらに、Society5.0 を視野に入れ、学生一人ひとりの興味や関心を引き出すための多様な学びの場を提供し、数理・データサイエンス教育の向上に向けた自学自習・演習の仕組みを構築したため、2022 年度後期から開講する予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆数理・データサイエンスと社会とのつながりについての FD 講演会を年 1 回以上開催する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2021 年度 FD・SD 講演会 開催日時：2021 年 9 月 1 日 (水) 13 : 30 第 1 部 13 : 40～15 : 10 省略 第 2 部 15 : 15～16:35 演者：豊田 長康 学長 演題：IR 推進室の教学データの分析について 演者：鶴岡 信治 医療健康データサイエンス学科長 演題：医療福祉分野における AI・データサイエンス人材の育成方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆Society5.0 を視野に入れ、学生一人ひとりの興味や関心を引き出すための多様な学びの場を目的とし、数理・データサイエンス教育の向上に向けた自学自習・演習の仕組みを構築する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>構築した数理・データサイエンス教育の向上に向けた自学自習・演習の仕組みを 2022 年度後期から実施する予定。</p>
<p>3. 学修者の能動的な修学を支えるための学修支援システムの更なる拡充及び学修成果の可視化によ</p>	<p>学修者本位の教育として、学生が「学修」する者としての責任と覚悟に気付き、能動的に学習できる体制を構築</p> <p>① 学修支援システムの拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆e ラーニングを含めた学修支援システムを最大限に利用した自

<p>る学修者自身の自学自習や就職活動に有用な仕組みの構築</p>	<p>自学自習・演習などを各学科独自あるいは全学共通分野の授業へ普及させることを目指す。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>learning BOX やSUMS-PO などの学修支援システムを利用した自学自習・演習用の教材を全学共通分野において、1科目以上の導入を目指し、達成した。</p> <p>◆教員が、SUMS-PO を活用して学生の学修成果を共有できる仕組みの構築を企画する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>SUMS-PO の学修カルテ機能で学修成果とその到達度などについて、学生自身や保護者、そして教員がリアルタイムに確認できる環境が整備され、個別指導に活用している。</p> <p>① IR 推進室による分析データの活用</p> <p>◆各学科・専攻の IR 担当教員が抽出した成績不振学生などのデータに基づいて、各学科・専攻の教育質保証委員会は教育改善及び指導体制について方針を立て、それらを実施する体制を構築する。特に、1年生早期のデータを参考に個別指導が必要な学生を抽出し、当該学生への継続的な支援を行うことができる方策を企画する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>各学科・専攻の IR 担当教員が SAS システムを活用し、各学科の現状を把握し、情報を共有し、教育質保証委員会が個別指導体制ができるように構築した。</p> <p>◆学生の学修時間の状況調査や意識調査の集計結果に関する情報を本学ホームページにて公表し、それらを活用できる体制を模索する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>学生の学修時間の状況調査や意識調査の集計結果に関する情報を本学ホームページにて公表し、活用できる体制を整えた。</p> <p>③ 学修者本位の教育として、一人ひとりの学生が「何を学び、何を身に付けたのか」を評価検証する教育質保証を実践するための学生本人による学修ポートフォリオなど可視化された学修成果の確認と、その活用の考案</p> <p>◆下記の学修支援を組み合わせ活用する方法を企画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修ポートフォリオの充実による学生自身の成長の確認 ・ルーブリックの活用による評価尺度の標準化と可視化 ・カリキュラムマップを活用し、ディプロマ・ポリシーの到達に向けた確認 ・ディプロマサプリメントの交付による卒業時の学修成果の客観的な可視化 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>一人ひとりの学生が「何を学び、何を身に付けたのか」を評価検証する教育質保証を実践するために、学修成果を正確に測定し、その成果を活かせるような仕組みである「SUMS-PO の学修カルテ機能」を活用した。さらに、学修ポートフォリオを充実させ、学生自身が成長を確認できる仕組みを構築し、運用した。実験・実習 の評価方法は、各学科がルーブリックを用いることで、教育内容を共通化した。また、カリキュラムマップを活用し、ディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗を確認した。</p>
-----------------------------------	---

	<p>◆学生自身がディプロマ・ポリシーにどれくらい近づけたかを確認できることが、学修成果の可視化の目的であり、確認したデータに基づいて学生自身が入学後の自身の成長を知り、その後の学修計画に活用できる仕組みを樹立する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 ディプロマサブリメントを交付し、卒業時の客観的な学修成果を可視化した。</p> <p>◆教育目標について、卒業時に学生による学習到達度の自己評価を調査し、その結果を本学ホームページに公表し、大学として教育成果を確認し、教育改善に繋げる仕組みを構築する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 教育目標について、卒業時に学生による学習到達度の自己評価を調査し、その結果を本学ホームページに公表し、大学として教育成果を確認し、教育改善に繋げる仕組みを実行した。</p> <p>④ 卒業後アンケート調査結果等とそれらの活用</p> <p>◆卒業生の就職先等の進路先による調査を施行し、調査内容及び調査結果について公表するとともに、調査結果等を教育改善に反映させる体制の構築を企画する。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 卒業生の就職先等の進路先による調査を施行し、調査内容及び調査結果について公表することを目標に、調査結果等を教育改善に反映させる体制の構築を検討している段階で、実施に至っていない。</p>
<p>4. 医療人底力教育と多職種連携教育の拡充・発展のための全学的な視点に立つ学科・施設横断型のカリキュラムの再構築とその実践</p>	<p>入学前教育、初年次教育、専門教育の連携の強化により、専門教育の土台となる知識・技能・態度を総合的に涵養する教育体制の整備</p> <p>① 医療人底力教育の再構築</p> <p>◆総合的な授業編成が特徴である医療人底力教育は、特に1年生の「医療人底力実践」を全学必修科目とし、学科横断型の柔軟な姿勢・思考方法を身につけさせることを目指している。また、医療・福祉系総合大学である本学の特色を活かし、多様性ある幅広いカリキュラムを4年間一貫教育として実施している。</p> <p>2022年度設置される新設学科(救急救命学科)や2021年開設された大学附属桜の森病院との協力体制を図る統合的カリキュラムを企画し、再構築する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2021年度は医療人底力教育を一部対面で実施することができ、教科書をもとに学生が予習・復習し、教員も教科書に沿って指導することができ、教員間の指導内容や、指導及び評価方法の標準化が図れた。また、2022年度設置された救急救命学科や2021年開設された大学附属桜の森病院および桜の森白子ホームとの連携と協力体制を図る統合的カリキュラムを見直し、2022年度も一部カリキュラムを変更するなど、教育改善を行った。</p> <p>・2021年度には桜の森病院長による特別講義を底力実践Ⅱ前期体験プログラムにおいて実施した。 2021年度 桜の森病院長 渡部秀樹教授による特別講義 開催日時 2021年7月29日(木) 15時10分～ Zoom開催 演題: 桜の森病院における緩和ケアについて</p>

	<p>◆実社会の課題解決に生かせる能力を養うため、底力教育に数理・データサイエンスの要素も組み入れ、専門分野横断的なSTEAM教育を導入する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 全学科横断教育の必修科目として「医療人底力実践Ⅲデータサイエンス」を追加し、更にDX化を意識したオンライン開講を継続する科目について、学科等で教育効果があると判断し選定した場合は、2022年度も更なる充実と推進に努めることとした。</p> <p>② 高いレベルの学力と総合力を培うための教育</p> <p>◆上級生向け実践的応用編である「多職種連携教育」を充実させ、大学附属桜の森病院と連携し、社会の求める高いレベルの医療人教育を企画する（緩和ケア実習検討部会）。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 4年次において、複数学科の学生がチームを組み、地域の病院、老健施設、訪問看護ステーション、地域包括ケアセンター等で「医療人底力実践（応用）」を行い、2021年10月9日開催の学生による報告会では、その成果が確認できた。 3年次において、「医療人底力実践（展開）」を遠隔で実施し、多職種連携教育（チーム医療教育）に質の高い教育を担保したプログラムを構築し、年々履修生が増加している。 （2019年度：45名、2020年度：47名、2021年度：60名） 2年次において、平成29年度より始まった三重大学医学部との共同授業「慢性疼痛チーム医療者養成プログラム」の授業を感染症拡大防止のために遠隔で実施した。満足度アンケートでは113人中113人が満足・やや満足と回答しており、多職種連携教育を推進できた。4回目通算138名の修了者を出しており、今後も三重大学と協力し継続する方向で進めている。</p> <p>◆現在実施中の事例と実践で学ぶ多職種連携教育を各学科・専攻の専門性を生かせるような内容へと進化させ、全学科の学生が履修可能な体制を整備することで、医療人としての総合力を養う一貫教育を企画する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 事例と実践で学ぶ多職種連携教育は、コロナ禍であるにも拘らず、質の高い教育を遂行できた。2022年度も附属施設での実習を予定しており、今後も実質的活動を推進していく。</p> <p>◆新設学科や大学附属桜の森病院との連携を含め、本学独自の魅力ある教育改善策を企画・立案する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 大学附属桜の森病院の2021年度の開設に合わせ、実習病院として活用するために各学科の実習内容に合わせたカリキュラムを企画するために、緩和ケア実習検討部会を組織したが、コロナ禍で実習が中止となり、十分な活動ができなかった。</p> <p>③ 資格試験を意識した入学前教育、初年次教育、専門教育システムの連携協力体制の再構築とその実践</p> <p>◆新入生プレイスメントテストの見直しを行い、基礎学力の不足する学生を一層早期に発見・抽出し、各学科と連携したケアと各学科の専門教育充実につながる初年次リメディアル教育の体制づくりを企画する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>
--	--

	<p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2022年度に向けプレイスメントテストの見直しを行い、新入生に対して、入学時に learning BOX を用いてプレイスメントテストを実施し、基礎学力が不足している学生を抽出し、専門教育に向けたリメディアル教育を実施した。</p> <p>【リメディアル教育履修者数】</p> <p>2021年度 84人（2020年度 57人）</p> <p>また、各学科及び学年によって学習内容が異なる教育を実施するために、各学科の教育質保証委員会は、IR分析結果や日頃の授業態度、そして成績不振学生などのデータに基づいて、教育体制の構築を目指し、今後も引き続き実行していく。また、learning BOXなどを活用し、個別指導が必要な学生を抽出し、継続的な支援を行った。</p>
--	--

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 4 : 学生支援の強化						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国家試験の標準修業年限内合格率 100%を目指し、きめ細かい指導方法の確立と実施。 2. 就職率 100%を目指し、医療機関に加え就職先として民間企業への就職支援の充実。 3. 学生アンケート調査結果も踏まえ学生支援体制を強化し、面倒見の良い大学を実践する。 4. 学友会やクラブ活動・ボランティア活動を支援し、チームワークや自主性を育てる 						
<p>責任者: 森下芳孝 (学生・社会貢献担当副学長)</p> <p>分担者: 岩崎泰正 (健康管理センター長)、大井一弥 (国家試験対策委員会副委員長)</p> <p style="padding-left: 20px;">綾野真理 (学生相談室室長)、大塚紀寿 (就職・キャリア支援課長)、勝田能成 (学生課長)、</p> <p style="padding-left: 20px;">田中宏治 (白子学生・就職課長)</p> <p>事務局: 学生課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—					▶
中期計画 2.	—					▶
中期計画 3.	—					▶
中期計画 4.	—					▶
2021 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 国家試験の標準修業年限内合格率 100%を目指し、きめ細かい指導方法の確立と実施</p>	<p>①本学の教育理念である「知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリストの育成」を実践し、教育体制構築に向けて取り組む。目標達成に必要な行動計画の企画立案と施策実施をする。</p> <p>◆計画の達成状況については各担当教職員で構成される国家試験対策委員会で課題共有や有益な施策共有など達成状況を把握し課題解決に取り組む。</p> <p style="padding-left: 20px;">□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p style="padding-left: 20px;">上記達成状況の具体的内容</p> <p style="padding-left: 20px;">令和 3 年度の国家試験対策委員会は、6 月 9 日 (水)、8 月 25 日 (水)、11 月 30 日 (火)、3 月 16 日 (水) の 4 回開催され、国試合格に向けての指導に関する意見交換、情報共有が実施された。</p>					
<p>2. 就職率 100%を目指し、医療機関に加え就職先として民間企業への就職支援の充実</p>	<p>①本学の「教育方針 2021」にある「面倒見の良い、魅力ある大学」を目指し、卒業後の進学・就職支援体制構築に向けて就職希望者に対しての就職率 100%を目標とする。</p> <p>目標達成に必要な行動計画の企画立案と支援体制を整え、施策実施状況については、各担当教職員で構成される就職委員会で達成状況を把握し運営していく。</p> <p>◆就職支援の取り組みとして、学科単位で開催する年間就職ガイダンスに加え、進路就職相談の個別対応については対面方式の対応と WEB による遠隔オンライン方式を活用して対応していく。</p> <p style="padding-left: 20px;">■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>					

	<p>上記達成状況の具体的内容 令和3年度は学科単位のガイダンスに加え、学外実習や新型コロナウイルス感染症の状況により投稿できない学生に向けて、メールでの書類指導や遠隔での面接指導などを実施した。</p> <p>②薬学部5年次生を対象とした学内合同企業説明会の実施 病院・薬局・製薬メーカー・官公庁など幅広い業界の法人様に参加いただき、オンライン等を活用して情報発信を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 3月4日(金)に実施。 参加学生73名、参加団体(病院・企業)55団体</p> <p>③薬学部1～6年次生を対象とした学内個別企業説明会の実施 薬剤師が活躍できる業界を知り、目指す薬剤師に対する意識向上に繋げることを目標とし、オンライン等を活用して企業研究の場とする。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2021年10月までは新型コロナウイルス感染症拡大の恐れがあったため中止していたが、11月に再開。 2022年3月までの学内個別企業説明会実施団体は47団体であった。</p> <p>④看護学部1～3年次生を対象としたマナー講座の実施 低学年からマナーに対する意識付けをし、実習において実践することで、医療人としてのマナーを身に付ける。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2021年7月29日(木)2年生対象、遠隔にて実施。 2021年8月2日(月)3年生対象、遠隔にて実施 2022年2月7日(月)1年生対象、対面にて実施。</p> <p>⑤看護学部3年生を対象とした三重県厚生農業協同組合連合会の病院説明会の実施 就職ガイダンスの一環として、病院研究を目的としJA三重厚生連に所属する病院の看護部長及び卒業生による病院説明会を実施する。三重県の病院への就職率を向上させる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2022年1月6日(木)対面にて実施。</p>
<p>3. 学生アンケート調査結果も踏まえ学生支援体制を強化し、面倒見の良い大学を実践する</p>	<p>【学生課】</p> <p>①学生満足度を経年で比較・評価できる指標を用いて、満足度の向上を目指す中で、学生から汲み上げた意見・要望を実際の学生支援に反映させていく。</p> <p>・学生満足度調査を実施する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生満足度を経年で比較・評価できる指標の作成を学生の意見も取り入れながら進めていたが、年の大部分がオンライン授業となり継続して意見を聴取する機会を逸してしまったため、次年度も引続き作成業務を行い、実施までつなげていきたいと</p>

	<p>考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在学生アンケートを実施する。(意見・要望の集約) <ul style="list-style-type: none"> ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 従前より学生総会時に行っていた学生アンケートの項目を見直したことで、前年以上の記述回答を得ることができた。 このアンケート結果に基づき大学への要望等を取りまとめ、関係各所に伝達し対応・改善を求めた。 ・ 卒業生アンケートを実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 本学ホームページ内で卒業生を対象にアンケート調査を行い、その結果をホームページ上で公開した。 ・ 学友会組織との意見交換会を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学友会顧問(副学長)との意見交換会を計画し実施日も設定していたが、実施予定日が出校停止期間と重なったため、後日学生課と学友会執行部員による意見交換会を実施した。 ・ 学長と学生との意見交換会を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 オンラインを中心とした授業が行われていたため、学生を集めることが難しく、また、登校に伴う移動のリスク 及び、学生を1カ所に集めることに危険を感じたため、これまでと同様の形態による意見交換会の実施を取りやめた。 学長へは、在学生を対象にオンラインで行った「大学への要望等に関するアンケート」の結果を取りまとめ、その対応について学長・副学長ミーティングでご検討いただくなどの機会に、学生の声の把握を一部行っていただけたものと考えている。 <p>② 福利厚生施設、学内環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ運動 及び、通学路における交通指導の実施 <ul style="list-style-type: none"> □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新型コロナウイルスの影響により年間を通じて出校する学生数が減少したため「あいさつ運動」は停止し、最寄駅や通学路における交通指導 及び、学内メールシステム (sums-po) による交通事故防止に向けた注意喚起の配信のほか、地元自動車学校の協力を得てオンラインによる交通安全講習会を実施した。 ・ 学生食堂・売店との意見交換会を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生食堂に対する在学生の意見を集約した上で、学友会顧問(副学長)・学生課と食堂委託業者との意見交換会を実施した。 ・ 障がい学生に対応した学内環境を整備する。 <ul style="list-style-type: none"> ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容
--	---

障がい学生支援委員会を随時開催し、その都度必要と考えられる物品の購入や施設の改修を行った。

【健康管理センター】

- ③健康診断を円滑に実施し、学生の健康状態のスクリーニングを行い、所見のある学生には保健指導や再検査の実施および医療機関紹介等の支援を行う。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)
上記達成状況の具体的内容

2022年4月～6月に学生健康診断を実施し、有所見のあった学生については健康管理センターへ呼出し、血圧再測定、検尿の再検査、病院紹介等を今現在実施しているところです。

- ④全学部生を対象にUPIを実施し、精神的健康度のスクリーニングを行い、その結果をもとに学生相談室と連携して面談を行う。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)
上記達成状況の具体的内容

2022年度学生健康診断時にUPIを実施し、学生相談室と連携して、採点結果で面談対象となった学生については、今現在も引き続き面談をしていただいております。

- ⑤メンタルヘルス上の問題を抱えている学生に対して、学生相談室の予約等、随時対応する。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)
上記達成状況の具体的内容

自ら予約に来た学生に対して随時学生相談室の予約を行うと同時に、メンタルヘルス上の問題を抱えていると思われる学生を見つけた場合には、健康管理センターより学生相談室の利用を勧めたり、予約を行ったりしています。

- ⑥感染症の予防および修学に必要な抗体検査（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎、B型肝炎）を円滑に実施する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)
上記達成状況の具体的内容

2022年度の新入生に対して、100%抗体検査の実施を終了しました。

- ⑦抗体価低値の学生には、学外実習における感染のリスクを予防するため、ワクチン接種の勧告を行う。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)
上記達成状況の具体的内容

2022年度の抗体検査の結果で、抗体価低値の学生に対して「ワクチン接種」の案内を、6月末に対象者全員に配付いたしました。

(健康管理センター・白子保健室)

- ⑧各々の施設が管轄する学生に対し、病気やケガなど健康上の問題点への迅速な対応、ならびに適切な処置を行う。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)
上記達成状況の具体的内容

健康管理センター、白子保健室共に、学生の病気やケガに対して迅速に対応を行っております。

【学生相談室】

- ⑨学生相談体制の向上（前年度の分析結果をもとに行う）

	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における学生の多様なニーズに対応するため、従来の対面方式による相談だけでなく、それ以外の方法（メール、電話、zoom等による遠隔の相談）を活用し、相談活動を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 通常対面による面接に合わせ、適宜、メール、電話、zoom等による遠隔相談を実施している。 ・メンタルヘルスに関する情報発信、ピアサポート活動を念頭においた仲間づくりのための活動を企画・運営し、学生の心理面のサポートを行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 情報発信、仲間づくりのための活動を企画し準備を進めている。 ・教職員を対象に学生指導に役立つ情報の発信を行うと共に、メンタル面に問題を抱える学生への早期介入を行い、留年、不本意な休学・退学に陥る学生の減少を目指し、教職員との連携強化を図る。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 UPI健康調査の結果をもとに、必要に応じて情報発信をしている。 <p>【医療栄養学科】</p> <p>⑩学生への栄養及び食生活指導による健康管理への介入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の結果から栄養不良（低栄養及び過栄養）の状態に該当する学生への栄養相談及び指導体制の充実 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 コロナウイルス感染状況に考慮しながら、該当する学生に対し、栄養相談の案内を行い、指導を実施している。 ・上記に該当する学生への継続的な栄養相談及び指導体制の充実 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 上記に該当する学生に対し、栄養相談や指導を実施後も、学生からの栄養相談を実施している。 ・大学生の食生活に関する食生活についての情報提供の充実 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 実施を計画している。情報提供の資料は準備及び作成中である。そのための時間が必要となるが、調整し進めている。
<p>4. 学友会やクラブ活動・ボランティア活動を支援し、チームワークや自主性を育てる</p>	<p>①学友会、クラブ・サークル活動を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学友会組織の継続的支援を行う。 ・クラブ・サークル活動の継続的支援を行う。 <input checked="" type="checkbox"/> 達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 クラブ・サークル運営委員会（委員会役員及び、各クラブ・

	<p>サークルの代表・学生課) を年 4 回開催し、都度発生する問題点や課題に対する協議を行う中で、より良いクラブ・サークルの運営支援・協力を行った。</p> <p>②SUMS ポイント制度の周知 及び、取得促進に向けた取り組みを実施する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 コロナ禍で実施した大学祭等の学友会行事に関わった学生や、オンラインによるクラブ活動で除菌シートを作成し鈴鹿市に寄付を行った学生団体・制限内で開催された公式試合に参加した学生等からのサムスポイントの申請もあり、サムスポイントの趣旨や制度は概ね伝わっていることが確認できた。 なお、規程に基づき高得点者の表彰も行ったことで、サムスポイント取得にかかる意識の醸成に寄与することができた。</p> <p>③学生のボランティア活動への積極的参加を促す取り組みを実施する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ボランティア活動では1年生、2年生を中心に1,600名以上の学生がボランティアセンターへの登録を行い、ボランティアに参加した学生からは、自分で考え積極的に活動し、有意義な時間を過ごした旨の報告を受けている。</p> <p>④学生・教職員が積極的に社会貢献・地域貢献活動へ参加できるよう支援する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生・教職員が一体となり学友会活動やクラブ活動、ボランティア活動を含む地域貢献活動を促進する計画はあるが、新型コロナウイルスの感染状況もあり、あまり実践につながっていない部分もあるため、次年度は一層積極的な支援を行っていくよう考えている。</p>
--	--

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 5 : 教職員の育成と人材確保												
<p>【基本方針:4】 教職員の資質向上</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SD 研修会の実施や各種外部研修会の参加により、事務職員全体および大学執行部の教員の大学運営に必要な能力の向上を図る仕組みづくりを構築する。 2. 教職員評価において、教職員個々が業務遂行のための目標設定を行い、その目標を達成させるための仕組みづくりを検討する。 3. 他の大学等と協同で、FD/SD 研修会を定期的に開催する。 												
<p>責任者: 豊田学長 分担者: 鈴木秀幸 (法人事務局長)、村田尚久 (大学事務局長)、矢田智樹 (人事・厚生課長) 事務局: 人事・厚生課</p>												
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度						
中期計画 1.	—					▶						
中期計画 2.	—					▶						
中期計画 3.	—					▶						
2021 年度活動計画												
対応する中期計画項目	活動計画内容											
<p>1. SD 研修会の実施や各種外部研修会の参加により、事務職員全体および大学執行部の教員の大学運営に必要な能力の向上を図る仕組みづくりを構築する。</p>	<p>① 専門的知識や業務遂行能力を向上させる研修会を開催する。 ■ 達成(100%) □ ほぼ達成(実行中・80%) □ 遅れ有(50%) □ 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 事務職員研修会や教職員全体研修会など、滞りなく実施した。 令和 3 年度 SD 研修会一覧</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">実施月</th> <th style="width: 60%;">研修内容</th> <th style="width: 30%;">対象 (参加人数)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">9 月</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ FD/SD 講演会 村上雅人 学事特別顧問 (芝浦工業大学) 「高等教育の質保証とデジタルトランスフォーメーション」 ・ コンプライアンス研修会 村田尚久 大学事務局長 (コンプライアンス推進責任者) 「令和 3 年度公的研究費の運営・管理に関わるコンプライアンス研修会」 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員 (教員 213 名、事務職員 64 名) ・ 教員及び公的研究費関係部署 (教員 104 名、事務職員 14 名) </td> </tr> </tbody> </table>						実施月	研修内容	対象 (参加人数)	9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ FD/SD 講演会 村上雅人 学事特別顧問 (芝浦工業大学) 「高等教育の質保証とデジタルトランスフォーメーション」 ・ コンプライアンス研修会 村田尚久 大学事務局長 (コンプライアンス推進責任者) 「令和 3 年度公的研究費の運営・管理に関わるコンプライアンス研修会」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員 (教員 213 名、事務職員 64 名) ・ 教員及び公的研究費関係部署 (教員 104 名、事務職員 14 名)
実施月	研修内容	対象 (参加人数)										
9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ FD/SD 講演会 村上雅人 学事特別顧問 (芝浦工業大学) 「高等教育の質保証とデジタルトランスフォーメーション」 ・ コンプライアンス研修会 村田尚久 大学事務局長 (コンプライアンス推進責任者) 「令和 3 年度公的研究費の運営・管理に関わるコンプライアンス研修会」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員 (教員 213 名、事務職員 64 名) ・ 教員及び公的研究費関係部署 (教員 104 名、事務職員 14 名) 										

	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="635 235 730 577">12月</td> <td data-bbox="730 235 1145 577"> <ul style="list-style-type: none"> ・事務職員研修会 岩田弘美社会保険労務士事務所 特定社会保険労務士 岩田弘美 「ハラスメント相談窓口対応のすすめ方」 ・私学連携協議会みえ FD/SD 研修 弁護士 中村紘也 「著作権について」 </td> <td data-bbox="1145 235 1401 577"> <ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント相談窓口対応部署 (教員 1 名、事務職員 18 名) ・教職員 (教員 35 名、事務職員 57 名) </td> </tr> <tr> <td data-bbox="635 577 730 728">2月</td> <td data-bbox="730 577 1145 728"> <ul style="list-style-type: none"> ・高等教育コンソーシアムみえ FD/SD 合同研修会 株式会社 学び 代表取締役社長 寺浦誠司 「退学予防から見える教育改革の方向性」 </td> <td data-bbox="1145 577 1401 728"> <ul style="list-style-type: none"> ・事務職員 (事務職員 12 名) </td> </tr> <tr> <td data-bbox="635 728 730 1370">3月</td> <td data-bbox="730 728 1145 1370"> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員全体研修会 弁護士法 ALG&Associates 弁護士 井本敬善 「ハラスメントの理解と対応」 NTT ファシリテース 海野龍太郎 「地球環境とエネルギー～省エネから考える未来～」 ・SD 研修会 豊田長康学長 「数値データをもとに議論する文化の醸成」 鈴木宏治副学長/社会連携研究センター長 「仮説を立てて実証・検証する思考法」 ・FDSD 研修会 (三重大学) 桜美林大学 教授 小林雅之 「教育の質保証の課題と最新動向」 </td> <td data-bbox="1145 728 1401 1370"> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員 (教員 206 名、事務職員 63 名) 事務職員 (事務職員 63 名) 事務職員 (事務職員 11 名) </td> </tr> </table> <p data-bbox="619 1400 1404 1467">②研修会等に参加した教職員により、その研修内容を関係部署へフィードバックさせる仕組みづくりを検討する。</p> <p data-bbox="635 1467 829 1500">(2022年3月迄)</p> <p data-bbox="646 1512 1396 1541">■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p data-bbox="646 1541 933 1568">上記達成状況の具体的内容</p> <p data-bbox="646 1568 1404 1635">研修受講報告書の作成を義務付け、関係部署がある場合には、研修内容を共有させることとした。</p>	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・事務職員研修会 岩田弘美社会保険労務士事務所 特定社会保険労務士 岩田弘美 「ハラスメント相談窓口対応のすすめ方」 ・私学連携協議会みえ FD/SD 研修 弁護士 中村紘也 「著作権について」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント相談窓口対応部署 (教員 1 名、事務職員 18 名) ・教職員 (教員 35 名、事務職員 57 名) 	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・高等教育コンソーシアムみえ FD/SD 合同研修会 株式会社 学び 代表取締役社長 寺浦誠司 「退学予防から見える教育改革の方向性」 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務職員 (事務職員 12 名) 	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全体研修会 弁護士法 ALG&Associates 弁護士 井本敬善 「ハラスメントの理解と対応」 NTT ファシリテース 海野龍太郎 「地球環境とエネルギー～省エネから考える未来～」 ・SD 研修会 豊田長康学長 「数値データをもとに議論する文化の醸成」 鈴木宏治副学長/社会連携研究センター長 「仮説を立てて実証・検証する思考法」 ・FDSD 研修会 (三重大学) 桜美林大学 教授 小林雅之 「教育の質保証の課題と最新動向」 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員 (教員 206 名、事務職員 63 名) 事務職員 (事務職員 63 名) 事務職員 (事務職員 11 名)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・事務職員研修会 岩田弘美社会保険労務士事務所 特定社会保険労務士 岩田弘美 「ハラスメント相談窓口対応のすすめ方」 ・私学連携協議会みえ FD/SD 研修 弁護士 中村紘也 「著作権について」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント相談窓口対応部署 (教員 1 名、事務職員 18 名) ・教職員 (教員 35 名、事務職員 57 名) 								
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・高等教育コンソーシアムみえ FD/SD 合同研修会 株式会社 学び 代表取締役社長 寺浦誠司 「退学予防から見える教育改革の方向性」 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務職員 (事務職員 12 名) 								
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全体研修会 弁護士法 ALG&Associates 弁護士 井本敬善 「ハラスメントの理解と対応」 NTT ファシリテース 海野龍太郎 「地球環境とエネルギー～省エネから考える未来～」 ・SD 研修会 豊田長康学長 「数値データをもとに議論する文化の醸成」 鈴木宏治副学長/社会連携研究センター長 「仮説を立てて実証・検証する思考法」 ・FDSD 研修会 (三重大学) 桜美林大学 教授 小林雅之 「教育の質保証の課題と最新動向」 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員 (教員 206 名、事務職員 63 名) 事務職員 (事務職員 63 名) 事務職員 (事務職員 11 名) 								
<p data-bbox="223 1668 582 1836">2. 教職員評価において、教職員個々が業務遂行のための目標設定を行い、その目標を達成させるための仕組みづくりを検討する</p>	<p data-bbox="619 1668 1404 1736">①教員評価について、現在の評価方法の内容・方針について検証し、課題の抽出と目標を達成させるための改善を提案する。</p> <p data-bbox="646 1736 1396 1765">□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p data-bbox="646 1765 933 1792">上記達成状況の具体的内容</p> <p data-bbox="646 1792 1404 2038">教育研究活動実績を重視しつつ、本学の組織として理念・目標に沿った PDCA を回しているかどうかという観点を加えて半々の重みで評価している。特に PDCA 評価では、各教員が年度目標を提出し、期末に自己評価したものを、所属の上司により一次評価を行い、更に大学幹部による二次評価を行った。この評価制度を継続していくことで、課題等を明確にし、更に仕組みの質向上を目指していく。</p>									

	<p>②改善案を実行し、その結果を検証する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 適切な評価制度に近づけていくために教育研究活動評価委員会を開催し、教員評価方針について検証し、前年度の教員評価方針に修正を加え、S, A 評定に該当する教員を選定した。</p> <p>③職員評価の目標設定及び達成状況について、考課者と職員が面談を重ねることにより職員の目標達成に取り組む。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 考課者と課員とが中間面談を行うことにより、設定された目標の進捗状況の確認や助言を行うこととした。</p>
<p>3. 他の大学等と協同で、FD/SD 研修会を定期的開催する</p>	<p>① 教育・教務に関わる講演会活動等について、他の大学・短大等にも広報し、連携を図ることによって、大学運営の相乗効果を生み出すための講演会を少なくとも年1回以上開催する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 高等教育コンソーシアムみえや私学連携協議会みえによる研修会に教職員が参加した。</p>

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 6 : 研究活動の活性化を通じた社会貢献						
<p>【基本方針:3】 本学の特色を生かした研究を通じての社会貢献</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋医学と東洋医学の知識と技術（代替医療）を融合した統合医療研究を推進するための研究活動への資源配分 2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための研究環境の整備 3. 学内共同研究の推進と研究指導者の育成 4. 研究活動推進のための外部資金の獲得 5. 研究倫理の確立と厳正な運用 6. 産学官連携研究活動の推進 						
<p>責任者:鈴木宏治（大学院・研究担当副学長、社会連携研究センター長） 分担者:太田伸生（医療科学研究科長）、飯田靖彦（薬学研究科長）、長谷川誠仁（大学院課長）、 真弓 昭（研究振興課長） 事務局:大学院課、研究振興課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.	→					→
中期計画 6.	→					→
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 西洋医学と東洋医学の知識と技術（代替医療）を融合した統合医療研究を推進するための研究活動への資源配分	<p>①統合医療研究を本学の特色とするための検討 ◆統合医療研究を本学の特色として打ち出せる方法等について討議し、今年度中に具体的方策をまとめる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 SUMS 学科横断的共同研究助成として、学科間を横断して教員がチームを編成し、統合医療研究等の本学の特色を踏まえた研究方針を打ち出した。その後全教員に公募した結果、3件が採択され、今年度から事業が開始された。</p> <p>②統合医療に関する研究を推進する資源配分の検討 ◆統合医療研究を推進するため学内研究助成金等の資源配分について検討する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 SUMS 学科横断的共同研究助成として、統合医療研究等の本</p>					

	<p>学の特色を踏まえた研究に対し、100万円以内で3件を上限として研究費を措置することとなった。</p>
<p>2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための研究環境の整備</p>	<p>①研究環境の整備と適切な運営・管理</p> <p>◆今年度中に全教員及び学生（学部生は最終学年次生、大学院生は全学年）を対象とした研究環境に関する満足度調査を実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2021年10月～2022年1月の期間で全教員及び学生に対し、研究環境に関する満足度調査を実施した。</p> <p>◆今年度中に「研究実施委員会」と「社会連携研究センター運営委員会」を統合し、研究と社会連携に関する全般事項を検討する委員会として再編する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>社会連携研究センター長は社会連携研究センター規程で定められており、社会連携研究センター運営委員会と研究実施委員会の統合は規程上できないため再編は取り止め、従来通り両委員会を運営（ただし委員は兼任する）することとなった。</p>
<p>3. 学内共同研究の推進と研究指導者の育成</p>	<p>① 社会人、特に本学卒業生の大学院入学促進を目的とした広報活動、情報提供の強化（同窓会を利用して大学院の情報を流すなど新たな情報提供の場を設ける。）</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>本学同窓会誌への大学院入試情報の掲載、薬学部、看護学科、臨床心理学科等、学部生への大学院説明会を開催している。</p> <p>② 大学院兼任教員の増員による全学的な研究指導體制の構築（年度内に3名以上を増員する。）</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>医療栄養学科教授1名、准教授1名、看護学科教授2名を、医療科学研究科兼任教員に承認し、大学院兼任教員を増員した。</p> <p>③ 医療科学研究科の兼任教員における博士の学位取得の奨励（学位取得手段を具体化する。）</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>本学所属教員が、本学大学院に入学できる制度について承諾を得ているが、規程等の整備中である。</p> <p>④ 学内研究助成金の創設による学部学科横断的な共同研究の推進（本計画1-②で挙げており、場合によっては一緒に行う。資金的根拠を具体化する。）</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>SUMS 学科横断的共同研究助成が2022年度から始まった。2021年度は当該助成の募集、選定が行われ、教員、院生が応募している。</p>

<p>4. 研究活動推進のための外部資金の獲得</p>	<p>①科研費等の競争的外部資金を獲得するための具体的方策の取り組み</p> <p>◆科研費の応募説明会開催時に採択経験豊富な教員から採択されやすい計画書の作成について講義して頂く。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2021年8月19日、副学長(大学院・研究担当)を講師に迎え、採択されやすい計画書の作成について講演会を開催(オンライン)した。</p> <p>◆民間企業等から公募案内のあった研究補助金について全教員にメーリングリストで周知する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 民間企業等から公募案内のあった研究補助金について全教員にメーリングリストで周知した。</p> <p>②ホームページで教員の研究成果や取組事例の紹介</p> <p>◆今年度中にホームページを改定し、科研費の採択教員名及び課題の公表、教員の研究成果や取組事例を紹介するページを開設する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ホームページを全面的に改訂し、科研費の採択教員名及び課題(過去3年間)を公表した。教員の研究成果や取組事例としてイノベーション・ジャパンでの取り組みを掲載した。また、教員の最新の研究業績等を漸次”What’s New”に掲載し、広報している。</p>
<p>5. 研究倫理の確立と厳正な運用</p>	<p>①研究倫理に関する体制整備</p> <p>◆今年度中に研究倫理に関する諸規程を作成する。 <input type="checkbox"/> 達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 研究活動に求められる行動規範や不正行為に対応する規程等の作成準備を進めている。</p> <p>②研究倫理の厳正な運用</p> <p>◆「研究倫理に関する研修会」の次年度開催に向けて、今年度中に準備を進める。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 毎年開催しているコンプライアンス研修会の中で研究上の不正防止については説明しており、今年度も昨年同様に行うことで準備を進めている。</p>
<p>6. 産学官連携研究活動の推進</p>	<p>①ホームページで教員の産学官連携研究活動の成果や取組事例の紹介</p> <p>◆今年度中にホームページを改定し、教員の研究成果や取組事例を紹介するページを開設する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ホームページを全面的に改訂した。教員の研究成果や取組事例としてイノベーション・ジャパンでの取り組みを掲載している。</p>

	<p>②外部の産学官連携活動への参加による学内の研究活動情報の積極的発信</p> <p>◆国立研究開発法人・科学技術振興機構が主催するイノベーション・ジャパン等に参加し、学内の研究成果を積極的に発信する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 イノベーション・ジャパン 2021 に応募したが不採択であった。その他のイベントはコロナ禍で開催が自粛されており、積極的な発信には至らなかった。</p> <p>◆みえメディカルバレー構想、みえライフイノベーションプロジェクト (LIP)の活動に参加し、学内の研究成果を積極的に発信する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 本学研究担当副学長がみえメディカルバレー企画推進会議の会長として参加し、広報活動を推進した。また、みえLIP 鈴鹿関連会議に本学研究担当副学長と研究振興課長が参加し、研究成果を発信した。</p> <p>◆SUZUKA 産学官交流会の活動に参加し、学内の研究成果を積極的に発信する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 SUZUKA 産学官交流会に、本学研究担当副学長が理事、研究振興課長が事務局役員として、その運営に携わった。</p> <p>◆三重大学との包括的連携協定に基づき、両校間の共同研究を推進する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 本学教員に共同研究の実態調査を実施した結果、少数ではあるが三重大学教員との共同研究を行っていることが分かった。引き続き同大学との研究が推進されるよう努めていく。</p> <p>◆鈴鹿工業高等専門学校との学術協定に基づき、医工連携研究会を年度内に2回開催し、両校間の共同研究を推進する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 SUMS-NITS 医工連携研究会は毎年2回開催しており、昨年度は9月と2月に開催した。</p> <p>◆鈴鹿病態薬学研究会を年度内に1回以上開催し、学外研究者との交流を推進する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 鈴鹿病態薬学研究会は毎年開催しており、昨年度は2月に開催した。</p> <p>◆学内の研究成果等について、企画広報課と連携して社会的メディア（新聞・テレビ・ラジオ等）を活用した情報発信に努める。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 薬学科教員の受賞や図書のパブリケーション、放射線技術科学科教員の研究成果などは全国紙、地元新聞に掲載された。また薬学科教員の研究成果は、ラジオ出演等によりその内容が紹介された。</p>
--	--

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 7 : 国際交流の推進						
<p>【基本方針:2】 留学生の確保</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 留学生受入れのための体制づくりのための調査研究 2. 留学生の受入れから管理全般を担当する専門部署の設置検討 3. 中期計画 1、2 を踏まえた事業の実施 4. 学科単位での学生の海外体験の機会の拡充 						
<p>責任者: 高木久代 (国際戦略担当副学長)</p> <p>分担者: 小山尚樹 (入学課長)、長谷川誠仁 (大学院課長)、真弓昭 (研究振興課長)</p> <p>事務局: 入学課、大学院課、研究振興課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—		→			
中期計画 2.	—		→			
中期計画 3.						→
中期計画 4.	—					→
2021 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 留学生受入れのための体制づくりのための調査研究	<p>①他大学における受入れ体制を調査</p> <p>◆今年度中に本学と学科構成が似ている医療系大学を対象に、受入れ体制の実態を調査する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>(1) 日本での就職 (医療機関)</p> <p>本学に留学生を受け入れ、国家資格を取得して卒業後に日本で就労するには医療ビザの取得が必須条件である。同ビザを取得できる本学に係る国家資格としては、薬剤師、看護師、保健師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士が該当する。</p> <p>なお、私立医療系大学では、国際医療福祉大学、日本保健医療大学が留学生特別選抜を導入している。</p> <p>(2) 短期留学</p> <p>在学中に短期留学を行う私立医療系大学の筆頭として新潟医療福祉大学を例に挙げる。国際交流センターが中心となり、海外の 18 大学 4 医療機関と協定を締結し、派遣と受入れを行っている。</p>					
2. 留学生の受入れから管理全般を担当する専門部署の設置検討	<p>①留学生の受入れから管理まで一元的に行う部署の設置を大学に要望する。</p> <p>◆現在の事務局はすべて兼務で行っているため、専任で国際交流業務を担う部署の設置を大学に要望する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p>					

	<p>本学の国際交流を推進させるため、今年度から専属的に国際交流業務を行う教員が着任した。国際交流センター（仮称）を今年度中に設置できるように国際交流担当副学長と、国際交流専門教員で計画している。</p> <p>さらに海外の大学との提携に向けての調査を行い、実施できるように動いている。海外の大学と本大学が提携を結ぶことにより、相互の学生の交流を促すものとする。</p>
3. 中期計画 1、2 を踏まえた事業の実施	(本内容は 2023 年度から策定する。)
4. 学科単位での学生の海外体験の機会の拡充	<p>①既に学生の海外研修を実施している鍼灸サイエンス学科、医用情報工学科、看護学科の3学科については、活動を継続する。</p> <p>◆これら3学科における国際交流活動継続に活用できるように、今年度中に渡航手続（安全情報、予防接種等の情報含む）や危機管理に関するマニュアルを策定する。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>安全情報、予防接種等の情報は本学ホームページで公開した。海外危機管理（派遣、受入れ）に関するマニュアルは現在検討しており、今年度中には完成する予定である。</p> <p>②学生の国際交流が未実施である学科への支援</p> <p>◆教員レベルで繋がりのある大学等を一つの切り口として委員会で検討し、新型コロナウイルス感染症の終息を踏まえ、2024 年度末には全9学科のうち5学科で学生を含めた交流が実施できるよう進めていく。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>学生の交流が遅れている放射線技術科学科、医療栄養学科、医療福祉学科において、教員個人レベルではあるが海外の大学と繋がっていることを確認した。</p> <p>今後その交流を深めていき、組織としての協定締結を目指していく。</p> <p>③薬学研究科のコンケン大学との協定に基づく学術交流を推進する。</p> <p>◆2016年10月にコンケン大学と締結した教育・研究連携に係る協定の有効期間が今年10月で満了となるため、同協定を更新する。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>昨年10月で有効期間が切れた後、双方は更新する意向を確認した。現在協定書（案）の内容を交換し、締結に向けて検討している。</p>

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 8 : 信頼性の高い事業継続可能な組織体制の改革						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:4】 教職員の資質向上</p> <p>【基本方針:7】 大地震など災害への備え</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実効性のある中期的な計画の策定・実行・評価 (PDCA サイクル) による大学価値向上と確実に推進するため、教員と事務職員等が、教職協働体制のレベルアップを図る。 2. 危機発生時における体制の整備と、BCP を含めた各種マニュアルの更新を行う。 3. 教職員に対し、ハラスメント防止対策などの社会的責任、法令遵守に対する意識を向上させる研修会等を行うことで、組織の体制整備のレベルアップを図る。 						
<p>責任者: 豊田長康 (学長)</p> <p>分担者: 鈴木秀幸 (法人事務局長)、村田尚久 (大学事務局長)、勝田能成 (学生課長)、防災危機管理対策委員会、矢田智樹 (人事・厚生課長)</p> <p>事務局: 学生課、人事・厚生課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—					→
中期計画 2.	—					→
中期計画 3.	—					→
2021 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 実効性のある中期的な計画の策定・実行・評価 (PDCA サイクル) による大学価値向上と確実に推進するため、教員と事務職員等が、教職協働体制のレベルアップを図る</p>	<p>①数値データをもとに議論する文化の醸成とどうすればできるかを考えるクリエイティブな考え方を身に着ける仕組みを構築し、研修する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 豊田長康学長による「数値データをもとに議論する文化の醸成」研修会を開催した。</p> <p>②仮説を立てて実証・検証するという思考法を事務職員が理解し、身に着ける仕組みを構築し、研修する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 鈴木宏治副学長/社会連携研究センター長による「仮説を立てて実証・検証する思考法」研修会を開催した。</p> <p>③教員のエフォート率を概ね「教育 (専門担当科目、学科共同教育) 50%」「研究 (専門分野研究、教育研究) 25%」「全学組織活動 (初年次教育、多職種連携教育、委員会、入学募集活動、社会貢献活動、公共機関等との共同研究など) 25%」とバランスを整えていく。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p>					

	<p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>本学の創始者が示した指針に「第1に教育」「第2に研究」があり、教育のウエイトを最重視している。その上で、大学の使命として、質の向上とブランド力向上等の大学全体の機動力を強化していくための「大学スタッフとしての業務」のウエイトが高まっている。更に、「社会貢献・地域貢献」も重視しており、各教員の仕事量は増加しているが、配分比率は目標値に近づいていると判断した。ただし、コロナ禍において、「社会貢献・地域貢献」が十分には実行できていない。</p>
<p>2. 危機発生時における体制の整備と、BCPを含めた各種マニュアルの更新を行う</p>	<p>①防災・危機対策管理委員会を中心に、危機発生時における対応の他、危機管理対策本部の体制（危機レベルに応じた構成員、指揮・命令系統）や、事業継続も含めたマニュアルの作成及び、随時更新を行う。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>現在の全世界の状況を見ても、いまだ収束の兆しは見えざらに多くの制約を強いられる中で刻々と変化する新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する詳細な対応マニュアルを改定し続ける必要がある為、現行第5版まで作成し、学長と危機管理チームが連名で発信を行っている。また、各部門で想定される事象ごとの対応マニュアルやガイドラインの作成も行い、関係者が一堂に会する「防災・危機管理対策委員会」において、各部門の進捗状況や今後の取り組み等についての報告を行った。なお、同委員会では、学長のリーダーシップの下、災害時における事業継続計画（BCP）の作成を含めた諸規程・ガイドラインの充実を引き続き進めていく。</p>
<p>3. 教職員に対し、ハラスメント防止対策などの社会的責任、法令遵守に対する意識を向上させる研修会等を行うことで、組織の体制整備のレベルアップを図る</p>	<p>①ハラスメントに対する理解を深めるための研修会はもちろんのこと、相談窓口となる部署のレベルアップを図る研修会を計画する</p> <p>◆ハラスメントに関する教職員全体研修会および相談窓口となる部署の研修会を実施する。(2022年3月迄)</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>ハラスメントに関する教職員全体研修会(令和4年3月2日)および相談窓口となる部署の研修会(令和3年12月22日)を予定通り実施した。</p>

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 9 : 財務基盤の充実						
<p>【基本方針:全体】 経営体制の充実・強化、財務基盤の充実、補助金等の外部資金の獲得</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学納金収入の増加のための取り組みの実行と検証 2. 教育設備・研究設備等に関する補助金収入の増加のための取り組みの実行と検証 3. 研究に関する補助金や大学のシーズを活用した外部資金の獲得のための取り組みの実行と検証 4. 経費削減に関する取り組みの実行と検証 						
<p>責任者:鈴木秀幸(法人事務局長) 分担者:宮崎和裕(管財課長)、岩田善光(経理課長)、真弓 昭(研究振興課長)、 経費削減推進委員会 事務局:経理課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—					▶
中期計画 2.	—					▶
中期計画 3.	—					▶
中期計画 4.	—					▶
中期計画 5.	—					▶
2021 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学納金収入の増加のための取り組みの実行と検証	<p>①新学科の設置等により学生数を増やし、財務基盤の中心となる学納金収入を増加させる（前年度比+1.5%を目標） <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 定員割れをしている学科・専攻があったが、大学全体では定員を充足することができ、学納金収入も前年度比で約 2.3%増加している。 令和 2 年度学納金収入・・・4,313 百万円 令和 3 年度学納金収入・・・4,412 百万円</p> <p>②2022 年 4 月保健衛生学部救急救命学科の設置や、教育研究設備・施設整備の中期計画等を盛り込んだ財務計画を作成する（2021 年 12 月） <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2022 年 4 月開設の保健衛生学部救急救命学科の設置、建物改修・修繕計画、学科に必要な機器等の購入計画などを盛り込んだ中期財務計画を作成した。今後、多額の予算が必要になる事業計画は、この財務計画を参考にしながら検討をする。</p>					
2. 教育設備・研究設備等に関	①学科ごとの教育設備における中長期計画内容の共有化					

<p>する補助金収入の増加のための取り組みの実行と検証</p>	<p>◆学科予算打ち合わせ時における各学科からの「今後 6 年間に おける学科内教育設備整備計画」により共有化 (2022 年 2 月) ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学科特別予算 中期計画書 (6 年間) の報告受領</p> <p>②各学科の中期計画に則った教育設備に対する補助金や ICT などの 施設設備に対する補助金の募集状況に応じた申請を行う ◆上記「学科内教育設備整備計画」に基づき申請 ・ X線CT撮影装置の補助申請 (2021 年 6 月) ・ 遠隔授業推進活用事業補助金申請 (2021 年 6 月) ・ 遠隔授業活用推進事業補助金追加申請 (2021 年 12 月) ・ 学内 LAN 設備整備費補助金申請予定 (2022 年 1 月) ◆6 月および 12 月に行われる事業整備計画調査 (文部科学省) についても「学科内教育設備整備計画」に基づき回答 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2022 年度、2023 年度の補助金計画の提出 (2022 年 6 月)</p>
<p>3. 研究に関する補助金や大学のシーズを活用した外部資金の獲得のための取り組みの実行と検証</p>	<p>①科研費以外で民間企業等からの研究補助金の獲得 ◆民間企業等から公募案内のあった研究補助金について全教員 にメールリストで周知する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 民間企業等から公募案内のあった研究補助金については全て 全教員にメールリストで周知した。</p> <p>②教員の研究活動に資するための財務基盤として、大学の研究シー ズを活用した受託・共同研究費や寄附金の獲得 ◆ホームページを改定し、教員の研究成果や取組事例を紹介す るページを開設する (2022 年 3 月迄) ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ホームページを全面的に改訂し、教員の研究成果や取組事例 としてイノベーション・ジャパンでの取り組みを掲載した。</p> <p>◆研究シーズ集 (冊子体) を WEB 版に変更する (2022 年 3 月 迄) □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教員業績管理システムとシーズ集を一体化した WEB 版の構 築に向けて準備を進めてきたが、表示項目等の不具合があり今 年 3 月の完成には間に合わなかった。今年度前期には完成する よう現在準備を進めている。</p> <p>◆イノベーション・ジャパン等の産学連携イベントに参加し、 学内の研究成果を積極的に発信する。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 イノベーション・ジャパン 2021 は応募したものの不採択に終 わった。その他はコロナ禍で各種イベントが自粛されており、 積極的な発信とまでは至らなかった。</p> <p>◆学内の研究成果等について、企画広報課と連携して社会的メ ディア (新聞・テレビ・ラジオ等) を活用した情報発信に努</p>

	<p>める。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>薬学科教員の受賞や図書の出版、放射線技術科学科教員の研究成果などは全国紙、地元新聞に掲載された。また薬学科教員の研究成果は、ラジオ出演等によりその内容が紹介された。</p>
<p>4. 経費削減に関する取り組みの実行と検証</p>	<p>①全学で取り組むための経費削減推進委員会による省エネルギーに関する啓発活動の継続的実行</p> <p>◆省エネルギー意識向上のための講演会の開催（年1回）</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>省エネ講演会を教職員宛に Zoom にて実施向上（2022年3月）</p> <p>◆サムスエコ通信の発信（年6回）</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>各月（5、7、9、11、1、3月）の年6回サムスエコ通信の発信を実施</p> <p>◆新たな経費削減メニューの提案（2021年10月）</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) ■大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>新たなメニューについて経費節減推進委員会にて検討中</p> <p>②経費削減意識の向上を目的とした活動の継続的実行</p> <p>◆電気基本料金の見直しによる電気料金の削減（2021年4月 年間790万円削減見込）</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>千代崎（756→700kw）、白子（1,058→1,000kw）に契約変更（2022.4から）▲620千円/年</p> <p>◆電話回線の状況見直しによる不使用回線の廃止（2021年6月）</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>千代崎不要電話回線1回線の廃止（2021年6月）▲50千円/年</p> <p>◆白子キャンパスの給水引込管の径見直しによる水道料金（2021年7月 年間160万円の削減見込）</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>白子給水メーターの口径見直し（200→100A）による水道基本料金の削減（2021年8月）▲1,603千円/年</p> <p>◆年間エネルギー使用量の原油換算値における前年比1%以上の削減の実施（2021～2026年）</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) ■大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>桜の森病院及び対面授業の増加により年1%削減不可（+4%）</p>

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 10：4つのポリシーの実質化						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <p>1. 4つのポリシーの運用に関するPDCAサイクルの仕組みを実行する。 2. ディプロマポリシーの達成度をチェックし、向上させる仕組みを実行する。 3. 各学科のアセスメントポリシーに基づいて、自己評価委員会を通して点検・評価し改善する。</p>						
<p>責任者: 豊田長康 (学長) 分担者: 教育改革委員会、教育質保証委員会 事務局: 教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 4つのポリシーの運用に関するPDCAサイクルの仕組みを実行する</p>	<p>①教育目標を踏まえたディプロマポリシーを学生に周知する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生要覧を基に新入生にはオリエンテーション、在学生にはガイダンス時に説明し、ディプロマ・ポリシーとの一貫性を説明し、個人面談の際にも教務システム SUMS-PO の学修カルテ機能を利用し周知している。学修カルテは、履修科目がディプロマ・ポリシーに繋がっていることが可視化できるようにしている。</p> <p>②カリキュラムマップを基に、ディプロマポリシーとの一貫性を学生に周知する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 カリキュラム・マップを基に新入生にはオリエンテーション、在学生にはガイダンス時に説明し、ディプロマ・ポリシーとの一貫性を周知している。</p> <p>③4つのポリシーと教育課程との整合性を教育質保証委員会が点検し、教育改革委員会へ状況を報告する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各学科の教育質保証委員会は、11月と3月の年2回、学修成果を基に学科の教育課程との整合性に関する報告書を提出し、教育改革委員会は提出された報告書を確認し、審議した結果を、各学科の教育質保証委員会へ、報告・指摘している。</p>					

<p>2. ディプロマポリシーの達成度をチェックし、改善点を検討する。</p>	<p>①卒業生予定者に、学修成果に関する達成度を測定するアンケートを実施し、蓄積している調査結果と併せて分析し、改善点等について、教育質保証委員会で検討する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>卒業時に「学修成果に係る自己評価」アンケートを実施しており、毎年 85%以上の回答率の中、80%以上の卒業生が「達成している」「ほぼ達成している」と回答していることを確認している。</p> <p>本アンケート結果をホームページ上で公開し、卒業生に結果を周知するとともに、教育質保証委員会を中心に改善点を検討していく。</p> <p>②教育方針の改善点等について、年度末に教育質保証委員会は、教育改革委員会へ報告する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>各学科の教育質保証委員会は、年度末に学修成果を基に「留年者が発生した学科・専攻に係る次年度の改善目標・計画書」または「留年者ゼロの学科・専攻の取り組み実績・次年度計画書」のいずれかの報告書を提出し、教育改革委員会はその報告書を基に審議し、審議結果を各学科教育質保証委員会へ報告している。また、その報告書は全学科長へ配布し、参考にしている。</p>
<p>3. アセスメントポリシーについて、教育質保証委員会を通して確認する。</p>	<p>①学生の PDCA を促し、教育効果の有用性を確認するために、教務システム SUMS-PO の学修カルテ機能を活用し、学生自らの学修行動を振り返り、担任教員によるコメントも含め、学生の主体的な学習を促すために仕組みを構築する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>教務システム SUMS-PO の学修カルテ機能を活用し、学生の PDCA を促し、教育効果の有用性を確認する仕組みを構築した。各学科の教育質保証委員会ではこの内容を確認し、担任教員から学修指導を行っている。今後も見直ししながら、引き続き指導を行っていく。</p> <p>②反転授業の推進、オンライン環境下での試験実施方法の開発など新たな学修評価の在り方を開発する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>基礎学力養成教育を意識したリメディアル教育の実施を支援する組織を「医療人底力教育センター」内に設置することを決定し、2022 年度から本格的な運営がなされることになった。遠隔会議システム Zoom や動画などを活用した反転授業用教材を事前学習や事後学習に役立てるために、全教員及び全学生の learning BOX の活用できる体制を整備した。2022 年度版の FD ハンドブックを作成し、SUMS-PO や learning BOX の利用方法紹介および教育改善取り組みの具体的例示等を掲載し、LMS 研究部会を中心に学修評価の在り方を開発する活動をしている。</p>

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（放射線技術科学科）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者：放射線技術科学科長 分担者：大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長） 村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局：教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2021 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>1. 教育環境の充実</p> <p>① 学生教育用に準備された最新医療機器を使い、臨床現場に則した学内実習を実施し教育内容を充実化する。そのために、計画的な機器の更新・管理運用を行う。令和 3 年度には、CT 装置の更新を目指す。</p> <p style="text-align: center;">■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p style="text-align: center;">上記進捗状況の具体的内容</p> <p style="text-align: center;">Dual Energy CT 装置に更新した。</p> <p>② 学生の自己学修時間や場所の確保等について環境整備をする。</p> <p style="text-align: center;">□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p style="text-align: center;">上記進捗状況の具体的内容</p> <p style="text-align: center;">コロナ禍で人数制限があり希望者全員の確保ができなかった。</p> <p>2. 質の高い臨床実習を実現するため、改善点として以下を計画する。</p> <p>① オンラインミーティングシステム（ZOOM）を活用し、全臨床実習指導施設（約 70 施設）を対象とした臨床実習報告会および次年度臨床実習説明会を開催する。実施時期は 10 月および 2 月頃を予定する。</p> <p style="text-align: center;">□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p style="text-align: center;">上記進捗状況の具体的内容</p> <p style="text-align: center;">10 月は 30 施設の参加で開催した。</p> <p>② 3 年次 5 月に臨床実習希望施設調査を行うとともに教員との協議面談等を経て臨床実習指導施設を仮決定する。</p>					

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 全施設内諾済み</p> <p>③ コロナ禍を踏まえ、3年学内実習においてはオンラインと対面のハイブリッド方式を導入するとともに、年度末までに学内教員により対面での実技試験を導入する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 学内実習で対面が必要な部分は後期に開講した。</p> <p>④ 臨床実習中、毎日の適度な目標設定とポジティブフィードバックおよびリフレクションを促す独自の「臨床実習ノート（ポートフォリオ）」を作成し、効果的な経験学習を促進する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 「臨床実習ノート（ポートフォリオ）」を作成し、配布した。</p> <p>1. 教授方法のさらなる改善</p> <p>① 学修サポートシステムの教員活用を進める。特に今年度は、learning BOX等のイーラーニングを用いた予習復習支援教材を導入する。2021年度は専門科目の80%以上で導入することを目指す。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 専門科目においては達成している。</p> <p>② すべての演習・実習科目においてルーブリックを評価尺度として用い、総合評価に反映させる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 学内実習において総合評価に反映した。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. 1年次の早期に臨床等で専門の資格を持って活躍、あるいは社会人大学院生として活躍する診療放射線技師と接する機会をつくり、将来のキャリアデザインを描く手がかりとする。医療人底力実践基礎I学科プログラムにて企画する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 臨床現場で働く診療放射線技師を講師としてZoomで行った。</p> <p>2. 初期教育の一環として専門職にふさわしい態度等を学ぶ機会をつくる。マナー・ノンテクニカルスキル教育を2-3年生対象に実施する。特に、学内実験実習においては、必ず取り組む。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 2, 3年生の学内実習で行った。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 目標値 受験者あたりの合格率 90% HR18年入学生あたりの合格率 75% □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 合格率は 93.3%、ストレート合格率は 72.6%</p> <p>2. 指導内容 教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。</p>

	<p>① 1年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 授業内で国試過去問の解説を行った。</p> <p>② 1年生、2年生は、学年進級時の模擬試験を実施、3年生は年2回の模擬試験実施、4年生は年6回の模擬試験を実施する。 <input type="checkbox"/> 達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 3年生はコロナ禍で1回になる予定。</p> <p>③ 4年次模試の結果から、後期以降、成績不振者を月1回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、口頭試問またはイーラーニングによりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 各科目 60%未満の学生を対象にイーラーニング、Zoom、対面で補講を行った。</p> <p>④ 担任教員による学修状況の確認と学修指導を行う。1-3年生は年3回以上、4年生は月一度以上の面談を実施する。 <input type="checkbox"/> 達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 担任教員からZoomや対面で実施している。</p> <p>⑤ 4年後期、週一日、国試対策講義を開講する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 授業および模擬試験を行った。</p> <p>⑥ 模擬試験後の担任個人面談を実施し、生活状況の改善や国家試験学習支援（個人指導）を行う。 <input type="checkbox"/> 達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 担任から個人面談が実施されている。</p> <p>⑦ 模擬試験成績不振者の保護者へ成績通知を行う。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 文書にて通知した。</p> <p>⑧ 10月以降模擬試験や9月以降国家試験対策講義（放射線科学特論）では、座席を模擬試験成績順（成績下位者から順に前方）に指定席を設定する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 座席を模擬試験成績順（成績下位者から順に前方）に指定席を設定し、実施した。</p> <p>⑨ 国家試験直前の12月下旬から1月下旬にかけ、補習を実施する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 1月～2月に直近の国家試験の本学の正答率の低い問題の解説や類似問題の紹介等を重点的に行った。</p>
--	--

	<p>⑩ 各教員が国家試験の専門分野に精通し、国試全体も把握するため、毎回の模擬試験作成時に出題基準を明示する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容 配布用解答に記入し、明示した。</p>
--	---

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（医療栄養学科・管理栄養学専攻）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者:熊取 厚志（学科長）、太田 伸生（専攻長）</p> <p>分担者:三浦 俊宏（教務委員）、大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長）</p> <p>事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.						▶
中期計画 2.						▶
中期計画 3.						▶
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>1. アchievementテストの充実 学生の学年進行に応じた学習のアウトカムを確認するために、3年次に導入しているアチーブメントテストの更なる拡大充実を図る。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 3年次に導入しているアチーブメントテストについて、本年度入学性より履修要件に入れ充実を図ったが、更なる拡大はできなかった。</p> <p>2. 臨地実習の評価 臨地実習の重要性に鑑みて、受け入れ施設との十分な事前協議を行うとともに、派遣学生の習熟度評価と実践的能力向上の取り組みを継続する。習熟度の評価指標であるアチーブメントテストを臨地実習の履修要件にすることを目指す。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2022年度入学生より履修要件に入れた</p> <p>3. 実習試験の導入と拡大 実習の効果をより可視化し適正な評価を行うために、実習の評価法としてレポートによるだけでなく、実習試験を実施するようしてきた。この方向性を継続拡大し、学生の自主的学習態度の一層の涵養に務める。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p>					

	<p>上記達成状況の具体的内容 基礎栄養学実習、生化学実験などに試験を導入できた。</p> <p>4. IR 分析結果を活用した教育改善 IR 室との連携をもって、学生の教育および生活の問題点を解析し、早期の解決を図るための検討資料とする。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 これまでの解析結果により指導している状況</p> <p>5. 教育の保証委員会 “教育の質保証委員会”を設置して教員がシラバスに沿った教育を進めていることを評価確認し、必要に応じて助言する体制確立をめざす。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 シラバスに沿った教育の確認を一部科目について行った。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. キャリアプランニング授業の構築 学生の将来のキャリアプランニング充実を目的として、卒業生を含む学内外の人を招き、モチベーション向上につながるような授業形式の懇話会／セミナーを計画する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 4月～5月にかけて卒業生を招き講演いただいた。</p> <p>2. 早期導入教育の充実 1年生底力教育を利用して、管理栄養学専攻の立案に基づいて病院や福祉施設での管理栄養士の仕事を見学する機会を設け、早期の段階から学生の向学心高揚を目指す。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 コロナ感染防止のため、見学はできなかったが、特別養護老人ホーム、調剤薬局、食品会社に勤務される管理栄養士の方々に仕事内容について講演いただいた。</p> <p>3. リメディアル教育の実効性向上 受験者数減少が進み、入学者の学力レベル低下が懸念されるためリメディアル教育の充実が喫緊の課題である。対象となる学生にリメディアル教育への参加を促し、成果としての学修到達度を担任教員が把握してモチベーション向上をはかるように指導する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 リメディアル教育担当者より情報をいただき指導済み</p> <p>4. 成績不振者に対するトコトン教育の充実 1～3年の後期終了時に成績不振者に対し、2者ないし3者面談を行い、IR推進室の分析結果や学習ポートフォリオ等を活用し、振り返りによる自己認識を行わせ、目的意識・学習意欲を高めさせると共に、learning BOXなどの学修支援システムを活用した学習方法などの指導・支援を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 learning BOX が好評であるが、理論的な事項については工夫が必要である。</p>

5. グループワークやアクティブラーニングの導入

グループワークやアクティブラーニングなどをカリキュラムに導入して、学生が相互に学習することで向学心高揚につながるような機会を作る。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

実習科目を中心に導入済みである。

6. 国家試験対策学習支援の充実

国家試験対策の柱となる模擬試験の結果を常時モニターし、模擬試験では終了後直ちに振り返り学習の時間をとることにより、学生が自ら集中すべき学習項目の確認できるようにする。また、成績不振者には集中して補講や個別指導、及び保護者を交えた面談などを行い、従来から進めてきた学生個々へのきめ細かな指導を継続する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

補講、個別指導および保護者を交えた面談を実施した。

【臨床検査学専攻との交流の推進】

なお、新型コロナウイルス感染流行状況によっては計画検討にとどまることもありうる。

1. 学科教務委員会

学科内に教務委員会を立ち上げているので、問題点を両専攻の枠を超えて協議する体制をより充実させる。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

月に1度開催した。

2. 両専攻の合同演習の実施

① 栄養指導：管理栄養学専攻4年生が臨床検査学専攻3年生に栄養指導を行う。

② 検査説明：臨床検査学専攻4年生が管理栄養学専攻3年生に検査説明を行う。

□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) ■大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

コロナのため、栄養指導は行うことができなかった。

3. 両専攻学生の相互交流活動支援

両専攻学生の相互交流活動（球技大会や合同バーベキュー大会など）を支援する。

□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) ■大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

コロナのため交流活動を支援することはできなかった。

4. 他専攻の専門科目を聴講する機会を設ける

両専攻学生が互いの専門授業を聴講する機会を設ける。両専攻学生に益する栄養相談関係の授業や臨床検査医学演習(R-CPC)などをZoomなど聴講しやすい形式で設定する。

□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

学生アンケートをとったところ、選択科目を優先したいとの事から案内できていない。希望があれば対応する。

	<p>5. 市民公開講座の実施 両専攻教員による公開講座を開催し、市民に本学科の研究、教育を紹介するとともに、この地域の健康、福祉の向上に貢献する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input checked="" type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 コロナのため開催できなかった。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 国家試験の現役受験者の合格率と入学者当たりの合格率向上 新卒者の管理栄養士国家試験合格率の目標は100%とする。 また、進路変更や病気休学の学生を除いて、入学者の標準年限内の合格率は90%を目標とする。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新卒合格率は95.7%、ストレート合格率は88%であった。</p> <p>2. 国家試験対策 カリキュラムとして4年生前期の総合演習II、及び医療栄養学特別演習で国家試験対策の指導を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 問題演習を中心に繰り返し学習を行った。</p> <p>3. 3年生以下の学生対象の国家試験対策 3年生に対しても国家試験問題に接する機会が持てるようにして、学習の意義を具体的に意識させる。また、3年生の模擬試験受験を積極的に指導する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国家試験問題を解くように、過去問題を配布した。</p>

第1-1期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（臨床検査学専攻）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者:熊取厚志（医療栄養学科長・臨床検査学専攻長） 分担者:熊取厚志（医療栄養学科長・臨床検査学専攻長）、吉子健一（臨床検査学専攻教務委員）、 大井一弥（国家試験対策WG副委員長）村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.						▶
中期計画 2.						▶
中期計画 3.						▶
中期計画 4.						
中期計画 5.						
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>1. アchievementテスト(学習達成度確認試験)の充実 Achievementテストを共用試験に位置づけて1～3年次に実施し、各テストで一定以上の得点を取ることを臨地実習履修条件に加える仕組みを検討する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 1・2・3年生に実施しているが更なる拡大はなかった。今後、裏回答の作成方法などを教授する。</p> <p>2. OSCE(臨地実習前の技能修得到達度評価)の充実 OSCE確立に向け臨床検査技師養成所指導ガイドラインに基づき、現在の評価内容や評価方法を改善する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 臨地実習に対し、満足する内容ではなかった。項目を追加しさらなる検討が必要。</p>					

	<p>3. IR 分析結果を活用した教育改善と成績不振学生の早期抽出法の確立</p> <p>教育の質保証委員会の IR 委員及び LMS 委員を中心に IR データを解析し、その結果を基に教育内容・方法を改善する。また、成績不振学生とその予備軍を早期に抽出できる仕組みの確立に向けた検討を行う。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) ■大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 これまでの IR データが、直接的に学生教育に反映していないと考える。今後、具体的なデータ解析が必要。</p> <p>4. 検査説明のための技能の育成</p> <p>今後、臨床検査技師に求められる検査説明を行う為の技能の育成に関して、主に以下の二点からアプローチする。</p> <p>① 臨床検査医学演習 (R-CPC を含む) の充実: 授業評価と試験を基にさらなる充実を図る。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 症例を基に学生にデータを理解させることが必要。</p> <p>5. 新規臨床検査学教育コアカリキュラムの実施と検証</p> <p>2022年4月の入学生から適用されるコアカリキュラムについて、各科目の実施状況を評価し改善する。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 評価期間が短く拡大が必要。</p> <p>6. 教育の質保証委員会</p> <p>教育質保証委員会内規に基づき、当専攻における「トコトンできるまで教育(SUMS方式学修支援メソッド)」入学者、質向上、国家試験の確立・実施に向け教育に関連する課題について議論し、改革・改善を図る。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生における実績がまだ、十分でない。さらなる検討必要。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. 早期臨床体験実習</p> <p>1年前期の医療人底力実践(基礎 I)で、病院見学に加え OB・OG との意見交換の場を設け、臨床検査技師としての将来像をイメージさせる。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 底力実践で学習している。しかし、患者様の心理的な部分をさらに学習する。</p> <p>2. キャリアプランニング授業の構築</p> <p>学内の教員や外部講師(各種現場で働く臨床検査技師など)による講演を木曜日1限などに実施するキャリアプランニング授業の構築について具体的な検討を行う。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 外部より、健診センター、病院、在宅医療等の講師の話聞き、さらに充実したキャリアプランを考える。</p>

3. 成績不振者に対するトコトン教育の充実

1～3年の後期終了時に、成績不振者に対し2者ないし3者面談を行う。その際、IR推進室の分析結果や学習ポートフォリオなどを活用し、振り返りによる自己認識を行わせ、目的意識・学習意欲を高める。また、learning BOXなどの学修支援システムを活用した学習方法について指導・支援を行う。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

ランニングBOX,補講体制、面談の充実を今後、強化する。

4. 学会参加

3年生後期の臨床検査医学演習の授業に三重県医学検査学会の参加を組み入れて、向学心を高める。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

1年に一回参加して、発表等も実施している。

【管理栄養学専攻との融合の推進】

1. 学科教務委員会

両専攻の教育に関連する課題について、専攻の枠を超えて議論し、改革・改善を図る。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

月に1度開催した。

2. 両専攻の合同演習の実施

- ① 栄養指導:管理栄養学専攻4年生が臨床検査学専攻3年生に栄養指導を行う。
- ② 検査説明:臨床検査学専攻4年生が管理栄養学専攻3年生に検査説明を行う。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

コロナの為、実施することができなかった。

3. 両専攻学生による相互交流活動の支援

これまでと同様に、両専攻学生による球技大会やバーベキュー大会などを支援する。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

コロナの為、実施することができなかった。

4. 他専攻の専門授業を聴講する機会を設ける

両専攻学生に益する栄養相談関係の授業や臨床検査医学演習(R-CPC)を、Zoomなどを用い聴講しやすい形式で実施する。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

学生アンケートをとったところ、選択科目を優先したいとの事から案内できていない。希望があれば対応する

5. 市民公開講座の実施

両専攻教員による公開講座を開催し、市民に本学科の研究、教育を紹介するとともに、この地域の健康、福祉の向上に貢献する。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

コロナの為、実施できていない。

<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 国家試験の現役受験者の合格率と入学者あたりの合格率向上</p> <p>① 臨床検査技師国家試験の現役受験者の合格率目標値を100%に、入学者(進路変更を除く)あたりの合格率目標値を90%に設定し、以下2.3.の取り組みを行う。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 新卒合格率95.5%、ストレート合格約80%であった。</p> <p>② 成績不振の学生に対しては、補講や面談といった人手による手厚いケアを行い、モチベーションを含めて成績の向上を図る。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 補講、面談を繰り返し実施した。</p> <p>2. 全教科に共通する効果的な教育方法の構築</p> <p>定期試験や模試結果の詳細な分析結果に基づき、全教科に共通する効果的な教育方法を構築する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 定期試験に関する補講授業、模擬試験の裏回答作成を実施する。</p> <p>3. eラーニングシステムの構築</p> <p>記憶した知識のアウトプットが定着するまで、トコトンを繰り返すためのツールとしてeラーニングシステムの構築を進める。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 eラーニングシステムの構築方法を検討する。</p>
---	---

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（理学療法学専攻/理学療法学科）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者:リハビリテーション学科長 分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長) 村田尚久 (大学事務局長)、大塚紀寿 (就職・キャリア支援課長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.						▶
中期計画 2.						▶
中期計画 3.						▶
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>オンライン臨床実習ポートフォリオの導入により、実習の進捗確認の効率化、学生指導の密度を高める。これにより学力不足等による実習進捗上の問題は早期に明らかとなるため、実習指導者との連絡を密にし、必要に応じ、オンライン、対面での助言、指導を実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 計画通り、臨床実習にてシステムを運用中。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>学習支援：講義の進捗に合わせて国家試験準拠問題を課題として取り組ませ、その結果を基に助言、指導する 動機付け：初年次教育の中に、障害者、家族の談話に傾聴する時間を設ける。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学習支援は100%実施。談話の実施はコロナ対策のため不可。</p>					
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>模擬試験を実施、成績不良者への再学習指導として、学習塾的な補講による繰り返し学習を行わせる。最初は4年生から開始し、順次低学年への拡大を検討する。新卒国家試験の合格率100%、及び入学者あたりの合格率75%を目標とする。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 指導に関する取り組みは100%実施。新卒国家試験合格率91.4%、及び入学者あたりの合格率67%</p>					

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（作業療法学専攻）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者:リハビリテーション学科長 分担者:作業療法学専攻長、大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局:教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						▶
中期計画 2.						▶
中期計画 3.						▶
2021 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>コロナ禍において病院実習が困難となっている。そのため、Virtual Reality (VR) の教材を作成し、病院などの臨場感ある実習に取り組めるように工夫している。臨床実習では臨床実習の支援システムを 2022 年度から取り入れ、学校と臨床現場との密な交流に役立てることを計画している。このことで臨床実習での問題を出来るだけ早く、解決できるように実習を援助する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 Virtual Reality (VR) の教材を作成し、医療人底力実践 I（学科プログラム）にて使用した。この取組はマスメディアにて広報に役に立った。臨床実習では臨床実習支援システムを取り入れ、学校と臨床現場との密な交流に役立てることができた。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>学習支援：講義・実習の試験問題に国家試験に関する問題を 3 分の 1 出題することにより支援する。 向学心の高揚：現場の臨床で働いている先生や作業に精通している芸術家、障がい者を有した者を特別講師に招き、学生へ専門家としての向学心の高揚への取り組みを行なう。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学習支援：講義・実習の試験問題に国家試験に関する問題を 3 分の 1 出題した。 向学心の高揚：現場の臨床で働いている先生と基礎作業学実習にて芸術家、講義で障がい者の講師にて授業を行なった。</p>					

<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>合格率は全国平均を上回る合格率を確保したい。そのため、1年から3年次にかけて3科目（生理学，解剖学，運動学）の模試を行い，学習効果の確認と成績不良者においては learning BOX を用いた振り返り，国家試験ノートの作成を課している。また，4年次の「総合演習」では模擬試験を実施して指導する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>1年から3年次にかけて3科目（生理学，解剖学，運動学）の模試を実施し，learning BOX を用いて成績不良学生に補修を行った。また，4年次には外部講師を用いて講習会を開催する予定である。</p>

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（医療福祉学専攻）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者: 医療福祉学科長 分担者: 大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2021 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>教員一人ひとりが「とことんできるまで教育」の意味を深く理解・認識し、また、個々の学生の達成度や習熟度を見極めたうえで、すべての授業科目において社会福祉士・精神保健福祉士国家試験を意識した授業内容を展開することで、学生や保護者のニーズに応えることができるように取り組む。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>個々の教員が学生による教員評価、講義にけるリアクションペーパー等を活用し、学生のニーズ等に則った講義の展開に努めてきた。しかし、コロナ禍の折遠隔授業を多数取り入れざるを得ない状況があり、必ずしも完全に達成できたとは言えない。</p>					
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>学習支援に対する学生の意見・要望をくみ上げるシ様式を学科・専攻で独自で持ち、正確に把握・分析をすることで学習支援の体制に反映させる。</p> <p>心身に関する健康調査、経済調査、生活・就学の相談を細かく実施、総合的な支援を行うことで、昨年度休退学者 1 をゼロにする。</p> <p>□達成(100%)■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>昨年度の休学者は1名であった。退学者はゼロ。入学生の個人面接、2年生についても学期ごとに個別に担任が面接をし、学生生活についてきめ細かな相談に応じてきた。近年の特徴としては経済面での問題提起が一定数あり対応に難渋している。</p>					

<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>教育目標、カリキュラムポリシーを踏まえて、一層学生に寄り添い、小人数教育の特色を生かし、学生目線から教育を展開する。個々の学生の理解度に応じたきめ細かな教育を展開し、国家試験まで切れ目のない支援を継続し、標準就業年度内社会福祉士合格率75%、精神保健福祉士合格率90%を目指す。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>学生の理解度に応じた切れ目のない国家試験対策を展開してきたつもりであったが、従来60%の正答率でもって合格とされてきたものが、養成校には何ら連絡もなく、急遽70%に引き上げられたこともあり、全国平均を上回ったとはいえ予定していた合格率には届かなかった。また、福祉系の職域に就職をしない学生(自動車、食品等)の学生が意識の低いまま記念受験的にチャレンジすることもあり、厳しい結果となった。</p>
---	--

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（臨床心理学専攻）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者：医療福祉学科長 分担者：臨床心理学専攻長、大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局：教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2021 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>公認心理師・臨床心理士養成を主とした本専攻・大学院では、臨床実践に適った援助姿勢と技法を身につけることと、そのバックボーンとなる様々な理論を学ぶことを基本方針とし、教育においては以下の点を充実させます。</p> <p>①学部教育では、患者・クライアントを生物・心理・社会的視点から理解できるような理論を修得し、社会性を育み、自己理解・他者理解を深めるように教育する。各講義担当教員は、この方針を学生に常に認識させるよう、講義中にも取り上げて指導する。</p> <p style="text-align: center;">□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p style="text-align: center;">上記達成状況の具体的内容</p> <p>心理的アセスメントや心理療法では、心理検査等の被検者となったりグループワークを行ったりしています。そこから得られた結果を分析・考察することで自己理解や他者理解を促すよう努めています。また各講義ではアクティブラーニングを頻繁に取り入れ、多面的な見方の重要性を強調しています。</p> <p>②大学院進学希望者については、上記の能力の充実だけでなく、実践力を養うための現場経験（ボランティア、フィールドワークなど）を勧め、大学院進学の準備を行う。</p> <p style="text-align: center;">□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p style="text-align: center;">上記達成状況の具体的内容</p> <p>ゼミ担当教員の指導の下、大学院進学希望者のみならず学生全体に、教育福祉領域へのボランティアを紹介・斡旋しています（希望者が大変多く出てきています）。</p>					

<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>学年に応じた教育および指導を行う。</p> <p>① 1年生には入学直後からスタディスキル教育を実施し、大学での学習に早く適応できるように指導する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 1年生担任を主として、レポートの書き方、文献の読み方など綿密に指導を行っています。</p> <p>②各講義担当教員は、学んだ理論が実践でどのように役立つのか具体的にイメージできるように教育を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各教員は現場での実践経験があり、それらをふんだんに取り入れた講義を行っています。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>昨年度の公認心理師合格率は全国平均が 53.4%のところ本学は 50%であった。今後は 70%を目指す。</p> <p>①公認心理師受験については、大学院入学前に公認心理師試験問題(過去問)に沿って学部での学びを総復習するように指導する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 残念ながら2021年度の公認心理師試験合格者は、修了生受験者10人中5名でした(50.0%)。 学部生には、大学院進学前にこれまで学んだ学部での学びを総復習するよう指導しています。</p> <p>②大学院生には、複数回の模擬試験受験を推奨し、早期から受験対策を指導する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 大学院生や修了生にも模擬試験を受け、合格ラインに到達するまで学修を深めるよう促しています。しかし在籍中の大学院生は多くの実習や修士論文の作成もあり、なかなか受験対策まで手が回らないのが実情で、今後の課題です。</p>

第1-1期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（鍼灸サイエンス学科）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者:鍼灸サイエンス学科長 分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長) 村田尚久 (大学事務局長)、大塚紀寿 (就職・キャリア支援課長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.						▶
中期計画 2.						▶
中期計画 3.						▶
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>1 実習・実技教育の向上のための取り組み デジタル教材を活用して、収録した動画による学習、到達目標を確認するアクティブラーニング形式等を実施し、深い学習・技術の習得の向上をはかる。 2021年度は、準備期間として実技室の機器を更新と実技の動画内容を検討する。実技室のモニターの大型化、プロジェクターを高画質な4Kにアップデートし、視聴環境・内容を充実化、学習への理解、満足度を高める。動画は、取穴実習や臨床実習における内容について検討する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 3月にデジタルホワイトボードおよび備品が設置され、説明会が行われ、2022年より取り組みが可能になった。</p> <p>2 キャリア教育の充実 昨年度までに専門教育「鍼灸への誘い」による鍼灸師の職業観や将来像涵養を目標とした教育はほぼ完成した。下記、教育講演開催とキャリアプランの指導を強化する。</p> <p>① キャリア教育講演を年1回開催する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 卒業生で、サッカーJリーグ清水エスパルストレーナーとして活躍中の加藤智崇先生に学生時代からプロトレーナーになるまでの経験や苦労話、トレーナー業務の詳細などについて講演いただいた。</p>					

	<p>② キャリアプランを作成させ、個人面談での助言・指導に活かす。(2～4年生)。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 鍼灸師教員全員で担当。鍼灸師となるあるいは東洋医学をすることになったきっかけや経緯を紹介しながら、伝統医学・東洋医学・スポーツ・美容・中醫師・漢方・統合医療・海外の鍼灸・薬膳・留学などのテーマに基づき、歴史・現状・将来像について解説した。</p> <p>3 病院・クリニックへの就職支援 病院・クリニックの鍼灸治療の融合と協力の実態調査を行い、本学卒業生の病院・クリニックへの就職支援に取り組む。適応可能な希望者を病院・クリニックへ就職させる。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 実態調査に基づいて広報を行った結果、求人3件を得た。学生2名が病院就職を希望していたが、遠方および条件等の理由で、1名は地元の鍼灸院に就職、1名は研修生（筑波技術大学東西医学統合医療センタ）として進学した。</p> <p>4 鍼灸スポーツトレーナー学専攻のフィールドワーク実施 スポーツトレーナー学および資格試験の知識と技術をアウトプットするフィールドワークを実施する。これまでに施設および実施内容について検討してきたが、コロナ禍の影響で活動は中止された。今年度は、ワクチン接種後、感染状況が落ち着いた頃を見計らって実施する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学外実習は感染対策のため中止。学内の実技教育でフォローした。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1 学習目標：進級率100% <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2年次進級88.6%、3年次進級94.6%、4年次進級96.7%であった。</p> <p>2 学習支援内容 学生との関わりとコミュニケーションを重視して下記内容を実施。 ① 出席および体調管理のチェックと指導 ② 課題提出状況の把握と指導 ③ 個人面談 ④ 定期試験前後のフォロー ⑤ learning BOXの活用 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 授業態度・修学状況・成績などの情報に基づいて、早期から面談を実施。成績下位および欠席不良の学生には反復して行い、改善が乏しい場合は支援者に理解してもらい双方からのかかわりを強化している。国家試験対策を中心に learning BOXの活用している。</p> <p>3 意欲向上・交流促進のためのプログラムを計画 通年で開催してきた球技大会、取穴大会を含め、ワクチン接種後、感染状況が落ち着いた頃を見計らって実施を検討。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p>上記達成状況の具体的内容 感染対策のため中止。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1 受験者あたりの合格率：100%、 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 受験者あたりの合格率は100%であった。</p> <p>2 入学者あたりの合格率 2021年度66%、2022年度75%を目標とする。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 入学者21名あたりの合格率は57%であった。</p> <p>3 指導内容 教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。</p> <p>① 1年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 全教員が国家試験を意識した授業および試験を実施している。</p> <p>② 対策授業の指導を強化し、要点文集を段階的に暗記させ、全て暗記するまで確認試験を繰り返す。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 3、4年生の対策授業で実施。</p> <p>③ 成績不振者を月1回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、口頭試問によりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 4年生は実力テストの結果から、1～3年生は期末テストの結果から60点未満の学生に対し、補講およびトコトン教育を行い、課題、口頭試問、小テストを実施した。</p> <p>④ learning BOXの活用して隙間時間を利用した学習を促進。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 主要科目のlearning BOXの活用。学生の実施状況を確認して面談等で指導している。</p> <p>⑤ モチベーション維持・向上のために、定期試験後や補習終了後に個別面談を行い、学生との関わりとコミュニケーションを重視して国家試験まで一緒に取り組む。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国試対策委員と学科長による個別面談を実施、それに加えて担当教員を割り振りして学習状況、小テスト確認を実施した。</p>

第1-1期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（臨床工学科）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>						
<p>責任者: 臨床工学科長 分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長) 村田尚久 (大学事務局長)、大塚紀寿 (就職・キャリア支援課長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.						▶
中期計画 2.						▶
中期計画 3.						▶
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>①大学入学時に Early Exposure（病院見学、医療機器操作体験）を行い、初年次教育の充実を図る。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 Early Exposureとして計画されていた病院見学が新型コロナウイルス感染症のため中止となったが、学内で医療機器操作体験、本学卒業生2名による特別講演を実施した。 また、臨床工学科教員4名のキャリア講演会を開催し、臨床工学技士業務と進路について説明を行った。</p> <p>②臨床工学技士の業務拡大を見据えた新カリキュラムについて学科内でカリキュラム検討委員を選出し、検討を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 令和5年度の入学生から適用される「新臨床工学技士養成所カリキュラム」の完成を目指し、教育の質保証委員から選出されたカリキュラム検討委員で、新カリキュラムの原案を作成した。</p> <p>③4年前期・後期に開講される特別演習科目を学科全教員で担当し、国家試験対策を充実させる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学科教員全員で国家試験対策用のオリジナル教材（臨床工学科ハンドブック）を作成して学生に配布している。4年前期・後期に開講されている「臨床工学特別演習Ⅰ～Ⅴ」でこの教材</p>					

	<p>を活用した国家試験対策を行っている。</p> <p>④実習科目の実技試験は、ルーブリックを用いて評価を行い、実習科目の総合評価に反映させる。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 感染症拡大防止による登校制限で、対面の実習回数が少なくなり、また、一度に指導する学生数を最小限にする必要があった。 このような制限がある中でも、学生の技能習得を最優先にする必要があるため、実技試験の時間を技能習得の時間に充てた。</p> <p>⑤学修サポートシステムの教員活用を進める。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 SUMS-PO および learning BOX を活用した資格試験対策のコンテンツが準備されており、その他活用事例についても学科内で紹介されている。 通常の講義や実験・実習科目についても、授業資料やオンデマンドの講義動画が学修サポートシステムにアップロードされている。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>①GPA に基づいた学習指導計画を図ると共に、GPA 上位の学生を対象に早期の進路活動を促す。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2年次後期に GPA が 1.5 以下の学生に対して学修指導を行っている。また、GPA 上位の学生には、4年次の4月から就職活動開始の許可を与えている。</p> <p>②欠席の多い学生に対して、担任から早期に連絡を取り、状況を把握する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教務課からの資料にもとづき、欠席回数が多い学生に対して、各学年の担任教員が連絡を取って指導を行っている。</p> <p>③大学祭における学科発表の支援強化を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学科発表では、血液透析の仕組みを説明する動画の作成を行った。動画を作成するにあたり、説明用機材の作成、動画の撮影と編集作業において学生のサポートを行った。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>①新卒学生の 100%合格を目指し、入学者あたりの合格率は 90% (48名/53名) を目指す。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新卒学生の合格率は、95.9% (47名/49名) であり、入学者あたりの合格率は 79.2% (42名/53名) であった。</p> <p>②GPA 及び模擬試験によるクラス編成を行い、成績不振の学生を対象に前期から自習の義務付けと対策講義への出席を促す。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 毎月実施する総合模擬試験の成績から、「Cクラス」と認定された学生は、国家試験対策室での自習の義務付けと対策講義へ</p>

	<p>の出席を促した。</p> <p>③各クラスの習熟度に対応した国試対策や学修サポートを行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 模擬試験の成績と GPA から、「A クラス」、「B クラス」、「C クラス」の3つのクラスに分類して国家試験対策を実施している。</p> <p>④頻出問題と必要最低限な基本問題の演習を繰り返し行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 最低限必要な項目を記載した「臨床工学科ハンドブック」を学生に配布し、「臨床工学科ハンドブック」を活用した対策講義を行うことで、頻出ポイント・必須問題の指導を行っている。</p> <p>⑤各教員が国家試験の専門分野に精通し、国家試験全体も把握している。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 臨床工学技士国家試験は「医学系科目」、「工学系科目」とまったく分野の異なる科目が試験科目であるという特殊性を有している中で、各教員は、国家試験の各専門分野に精通している。 また、臨床工学科では、国家試験の学内採点のために模範解答を全教員で作成しており、また、国家試験問題を回覧して頻出問題の抽出作業を行っているため、教員全員が国家試験の全体を把握している。</p> <p>⑥国家試験サポートソフトウェアの教員活用を進める。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 臨床工学科の教員は、「過去問活用ソフト」を用いた模擬試験の作成と採点を行い、学生全員の模擬試験の成績の管理を行っている。</p> <p>⑦早期から国家試験への意識を高めるために、3 年次から全国統一模擬試験の受験を促す。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 3 年生には、全国統一模擬試験の受験を勧めており、少なくとも、一回は受験するように指導を行っている。</p>
--	--

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（医療健康データサイエンス学科/医用情報工学科）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者：医療健康データサイエンス学科長 分担者：大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局：教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2021 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>①教育内容の充実では、新学科のカリキュラムではデータサイエンスの基礎となるプログラミング能力を身につけさせるため、多数の授業科目でコンピュータ演習または実習を行いながら教育することになる。そこで、今年度はコンピュータ実習を含んだ授業科目を 15 科目以上に増やすための場所や施設の充実などの準備を行う。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2021 年度は新学科のカリキュラムの 2 年目であり、コンピュータ室以外で行う専門科目でも持参したパソコンを使用した授業を行っており、年間 15 科目以上においてコンピュータ実習を行う授業の準備がほぼ整った。今後、コンピュータ演習をより効果的に進める学生の学習意欲を高める教育コンテンツの充実を図り、効果的な教育を実施する必要がある。</p> <p>②教育方法・教授方法の改善としては、SUMS-P0、learning BOX などのオンライン教材を利用するための教材作成を行い、3 科目以上でオンライン教材の作成を実施し、教育効果の高いオンライン教材の作成に関する意見交換を実施する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>learning BOX を使用して一部の教員がオンライン教育コンテンツを作成し、効果的な教材の作成方法と今後解決すべき課題がある程度分かってきた。それで、今後、教員間で使用方法を共有し、成績集計などの補助ソフトを作成し、より使い勝手がよソフトする努力を行う予定である。</p>					

<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>①効果的な学習支援としては、授業の出席状況とレポートの提出状況を把握し、授業の理解状況を Sums-PO、learning BOX などの学習支援システムを使用し、学期の途中で理解度を把握する。そして、成績不振者に対しては、個別学習支援を行い、トコトン教育を実施する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>数科目で learning BOX を使用して授業の理解度と演習問題を実施できる教育コンテンツを作成し、授業の理解度を把握することを試みた。今後、成績不振者に対して、どのような教育コンテンツを準備すれば、学習に関するモチベーションが向上するかを検討する。</p> <p>②向学心の高揚への取り組みとしては、学生が就職後の仕事についてイメージを持たせるために、様々な職場で働いている卒業生または経営者・管理者と意見交換できる授業科目（医療人底力実践 I（学科プログラム）、病院実習を含む）を今年度は3科目以上とし、今後で増加させる方向で検討する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>様々な職場で働いている卒業生または経営者・管理者と意見交換できる授業科目を 2021 年度には 4 科目実施し、2022 年度にはさらに増やすための打合せ準備を行った。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>①本学科の学生の就職先は幅広い IT 分野またはデータサイエンスの利用分野であり、情報処理の基礎を身につけていることが必要である。そこで、情報処理技術者試験の「IT パスポート」（国家試験）を 2 年生の後期までに数年後には入学者あたりの合格率 80%（令和 2 年度の全国での平均合格率 50.8%）を目指す。そこで、今年度は関係する授業科目間で試験内容・出題範囲・理解レベルの分担を明確にし、学生に合格することによる就職等でのメリットを理解させ、多くの学生が受験する雰囲気作りを行う。また「C B T 疑似体験ソフトウェア」などを使用し、C B T 試験に慣れるための体験をさせる。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>国家試験（IT パスポート。基本情報技術者）と統計検定（4 級、3 級）に関係する教員全体で、学科内で授業内容の見直しを行い、学生が合格するまでのスケジュールを立案し、学生に提示し、学生のモチベーションを向上させる工夫を行った。</p> <p>②3 年生からは進路の選択が始まるので、医療秘書技能検定試験、診療情報管理士、医療情報基礎知識検定、医療情報技師、情報セキュリティマネジメント（国家試験）、基本情報技術者試験（国家試験）、統計検定（3 級、2 級、データサイエンス基礎）などの国家試験や検定試験に関して、入学者当たりの 1 種類以上の試験に合格した合格率を卒業時までには 70% にすることを目指す。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>3 年生からの進路選択に備え、学生にガイダンスで将来の進路を考えさせ、学生時代に受験する試験の種類などを具体的に選択させ、学習計画を立案させた。</p> <p>③教育指導としては、統計検定の受験率、合格率を向上させるために、マークシートリーダー（OMR）を使用し、模擬試験を実施し、効果的な使用方法を検討する。またその他の国家試験、検定試験に対しても実施できるように準備を進める。</p>

	<p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>OMR を使用するために、統計検定の過去問を電子化し、過去問活用ソフトを使用し、模擬試験の準備を行った。しかし、検定試験が CBT 方式に変わったので、模擬試験の方法を CBT 方式で実施できるように切り替えた。そして、多数の学生に過去問を回答させるには、learning BOX で行った方が、回答しやすいので、過去問を learning BOX でも回答できるように整備した。</p>
--	---

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（薬学科）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者：薬学科長 分担者：大井一弥（国家試験対策委員会副委員長） 村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局：教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2021 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>① 学生および保護者の一義的な期待は、留年／休学せずに薬剤師国家試験にストレートで合格することである。授業において国家試験を意識した内容も補足するように教員に求める。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ストレート合格率は、平成 15 年以降の設置大学（新設大学）27 大学中第 9 位と健闘した結果となった。</p> <p>② 低学年（特に 1 年生）で、学修に必要な技能を身につけているかについて、学生個々の状況を確認（出席、課題提出などで判別）し、学年主任、学科長の監督の下で担当教員に対応させる。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 低学年においては、日頃の各種データより授業出席や成績に関する不振者について担任に出来る限り早期に情報を提供し、脱落者を減らす努力を行ってきた。</p> <p>③ 低学年（特に 1 年生）で、学修環境の整備（学修に対する技能の習得）、学修習慣を付けさせるための授業復習をさせる環境の整備、定期的な学修成果の確認を実施する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 授業の振り返りとして、eラーニング（ESS 課題）を各授業後に実施を促して概ね実施できている。</p>					

	<p>④ 薬剤師国家試験合格後には、医療現場など社会で求められている薬剤師となることを目指している。各教員には、教育の基盤として薬剤師の業務に関して必要な幅広い知識・態度・技能を身につけるための教育を提供するように促す。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>6年次に設定したアドバンス授業を筆頭に、薬剤師としての資質を学生に備えさせるための授業を実施しており、各教員もまたそのような考えで授業に取り組んでいる。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>① 教育ツールの提供のほか、学生が質問しやすい現場環境作りに取り組む。特に低学年層には、教育ツールを取扱う知識や質問メールの作法などの導入教育（薬学教育だけではなく常識モラルの教育）を実施していく。そのためには、教育専門部門である薬学教育センターを有効活用していく。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>薬学科では、ストレート合格率向上を目指して教育を実施しており、特に低学年教育を充実させる（学生の早期自立学修の動機付ける）ため、薬学教育センターの教員を中心として各教員が教育指導に取り組んでいる。</p> <p>② 高学年では、成績下位層に対して各教員が幅広く学修支援を行い、学力を向上させている。中上位層には、向学心の醸成とモチベーション維持のため各教員が教育指導を実施しており、自学自習のためのコンテンツ提供も行っている。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>薬剤師国家試験のストレート合格率を向上させるためには、成績中位から下位の学生を合格に導くことがカギとなる。昨年度から4～6年次の一部授業について習熟度別2クラス編成で授業を行い、きめ細やかな指導が実施できたこともあって一定の成果が得られたと考えている。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1, 2に基づき、学修のためのコンテンツ（学修ツール、授業フォローコンテンツなど）を提供し、知識の定着を図る。特に低学年にはそれらのコンテンツを正しく利用できるよう指導しつつ学修環境を整備し、低学年での学力の底上げを行う。</p> <p>① 4年次 CBT の合格率および各学生の得点を薬剤師国家試験の合否指標の1つとして、本学卒業の受験生の100%合格率、70%以上の得点率となるような教育体制を構築していく。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>CBTは14名が不合格となった。受験対策を十分実施してきたと自負しているが、コロナ禍等で登校制限がかかるなど残念なこともあり、各教員の真摯な取組みに対して、一部学生は結果につながる正しい解答行動ができなかった。2022年度では、不合格者の個別面談対応も含めて、共用試験に自力で合格するという自覚を促し、早期から対策を強化している。</p> <p>② 薬剤師国家試験の目標は、ストレート合格率の向上とし、薬学部新設大学で上位に入る60%を当面の到達点とする。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2021年度第107回薬剤師国家試験の本学のストレート合格率は59.1%とほぼ目標値に到達できた。</p>

第 1 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（看護学科）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p> <p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p> <p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>						
<p>責任者：看護学科長 分担者：中井三智子（2021 年度教務委員長）、江口秀子（2021 年度学生委員長） 事務局：教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2021 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>①カリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラムマップ使用度を上げ、学生自身の学びの促進を方向づける。</p> <p>◆オリエンテーションでの具体的説明と前後期の担当学生の面談時に確認する。</p> <p style="text-align: center;">□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p style="text-align: center;">上記達成状況の具体的内容</p> <p style="text-align: center;">年度当初のガイダンスで、カリキュラムの全体構成、所属学年における学修内容とカリキュラム・ポリシーとの関連について説明し、各学生が学習目標を明確して計画的に学習に取り組むことができるよう促している。</p> <p>◆自身がこれまでに何を身につけ、何を学んでいくかを学生が主体的に理解できるようにする。</p> <p style="text-align: center;">□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p style="text-align: center;">上記達成状況の具体的内容</p> <p style="text-align: center;">文部科学省から示された「卒業時に必要とされる看護技術」を基に「看護技術の到達度リスト」を作成し、学生自身が学内演習や臨地実習を通してどの程度修得できたかマトリックスを用いて具体的に把握できるようにしている。</p> <p style="text-align: center;">また統合科目、基礎看護学の科目を中心にルーブリック評価表を作成し、学生と共有することで、学生が何を身につけるべきか明確にして取り組むことができるようにしている。</p> <p>②多様なメディア（learning BOX、グーグルフォーム等）を用い</p>					

	<p>てアクティブラーニングを推進する。</p> <p>◆反転授業を取り入れる。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 事前学習課題で問題についての判断やその根拠を明確にするような課題を課し、演習でアウトプットするといった反転授業を取り入れている。</p> <p>◆各回の授業での小テストやリアクションペーパー等による学生の理解度を高める。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 形成評価の目的で、ほぼ全科目で小テストまたは理解内容や疑問を整理するリアクションペーパーを活用している。</p> <p>③授業評価アンケートに対応し、授業内容の改善を推進する。</p> <p>◆アンケート回収率を高める。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学期末には各科目責任者からアンケート協力の呼びかけを行っている。</p> <p>◆学生のニーズに応える教育内容と教育方法を具体的に実施する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 授業評価に記載された内容は、翌年のシラバス「評価結果の活用欄」に改善策を明記し、具体的な改善につながるよう取り組んでいる。</p> <p>④「教育の質に係る客観的指標」と看護学科の現状の教育内容を精査し、必要とされる内容を組み込む。</p> <p>◆「教育の質に係る客観的指標」の内容を精査し、看護学科教育内容との適応状況、不足内容を点検する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 客観的指標としては、各科目の特別教育実施者数と不合格者数、留年者数である。コロナ禍で遠隔授業が多かった1・2年生の一部で学修の遅れや対面授業開始後の不応がみられたため、感染対策をとりながら対面授業を取り入れるようにしている。 教授内容が学生のレベルと合わせるよう2022年度から2年生開講必修科目「疾病・治療Ⅰ～Ⅳ」を再編成している。また3年次生の臨地実習や卒業課題の実施時期の変更、1年次生の指定規則に合わせた新教科の実施など、2022年度に大きく変更したものがあため、今後評価が必要となる。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>①成績不振者、休学者への学修支援計画の継続、評価、改善を行う。</p> <p>◆学科教務委員会、学生委員会、学年担当と担当教員が連携し、成績不振者および休学者の学習支援計画を作成する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学習態度や科目習熟度に課題を把握した場合、科目担当者、</p>

	<p>担当教員、教務委員会や実習・演習委員会が早期に問題共有している。必要時は面談を行い、学習面あるいは健康・生活面の問題を明確にし、学習計画の立案や生活管理上の指導を行う。定期試験で不合格となった学生に対しては、担当教員が面談し、再試験までの学習計画立案を支援するとともに、科目担当者からフィードバックをしてもらい、効果的学習につながる支援をしている。休学者に対しては、担当教員が定期的に連絡を取り、体調や現状の確認を行っている。学力不振を原因とした休学の場合は、学生と休学期間の学習計画を立案し、苦手科目の課題を課し定期的に指導を行っており、学修の継続と復学に向けた支援を行っている。</p> <p>◆学習支援計画の評価と改善行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 成績不振学生の状況は、科目担当者、教務委員が情報共有し、特別教育の内容や方法を評価している。</p> <p>②入学前教育（推薦入試入学予定者で希望者）とリメディアル教育を充実し、入学生の学習能力を向上する。</p> <p>◆現状を評価する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 対象学生に対して、担当教員を通じてリメディアル教育受講を勧めるとともに、進捗状況を確認している。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>①看護師・保健師国家試験合格率 100%を維持し、入学者あたりの合格率では、92%を維持する。</p> <p>◆1年次から系統立てた国試対策を実施し、評価する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 COVID-19の感染状況に合わせてセミナーは対面とオンラインとの併用によるハイブリット方式を適時取り入れ、学生が感染への不安を抱くことなく受講できるように環境を整え、1年次から4年次まで予定通りのセミナーを実施することができた。模試の結果が思わしくない学生は、対面でセミナーを受講するように指導し、集中して学習に臨んでいるか確認しながら成績向上につなげていった。保健師に関しては秋の模試結果が芳しくなかったため、公衆衛生看護学担当教員による強化セミナーを12回実施するとともに1月に業者による直前セミナーを2回追加した。 その結果、2021年度卒業生の看護師国家試験合格率 98.8%（86名中85名合格）、保健師国家試験合格率 100%（17名受験）であった。対入学者あたりの看護師国家試験合格率は91.6%である。</p> <p>②国家試験の合格に向けて、学生、教員、保護者が一丸となって取り組む。</p> <p>◆保護者説明会、3者（保護者・学生・教員）面談を有効活用し、成績不振者の学習支援に保護者の協力を得る。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 模試の結果やセミナーへ参加状況はその都度、担当教員に報告し、学生委員会と担当教員が協力して学生の学習指導に臨ん</p>

	<p>だ。また、保護者に対しては理解と協力が得られるように、保護者説明会では本学の国家試験対策の取り組みについての説明を行った。さらに秋以降の模試の成績不振者に対しては、早い時期から保護者を交えた3者面談を行い、保護者に状況説明と学習に集中できるように環境を整える協力依頼を行った。</p>
--	---